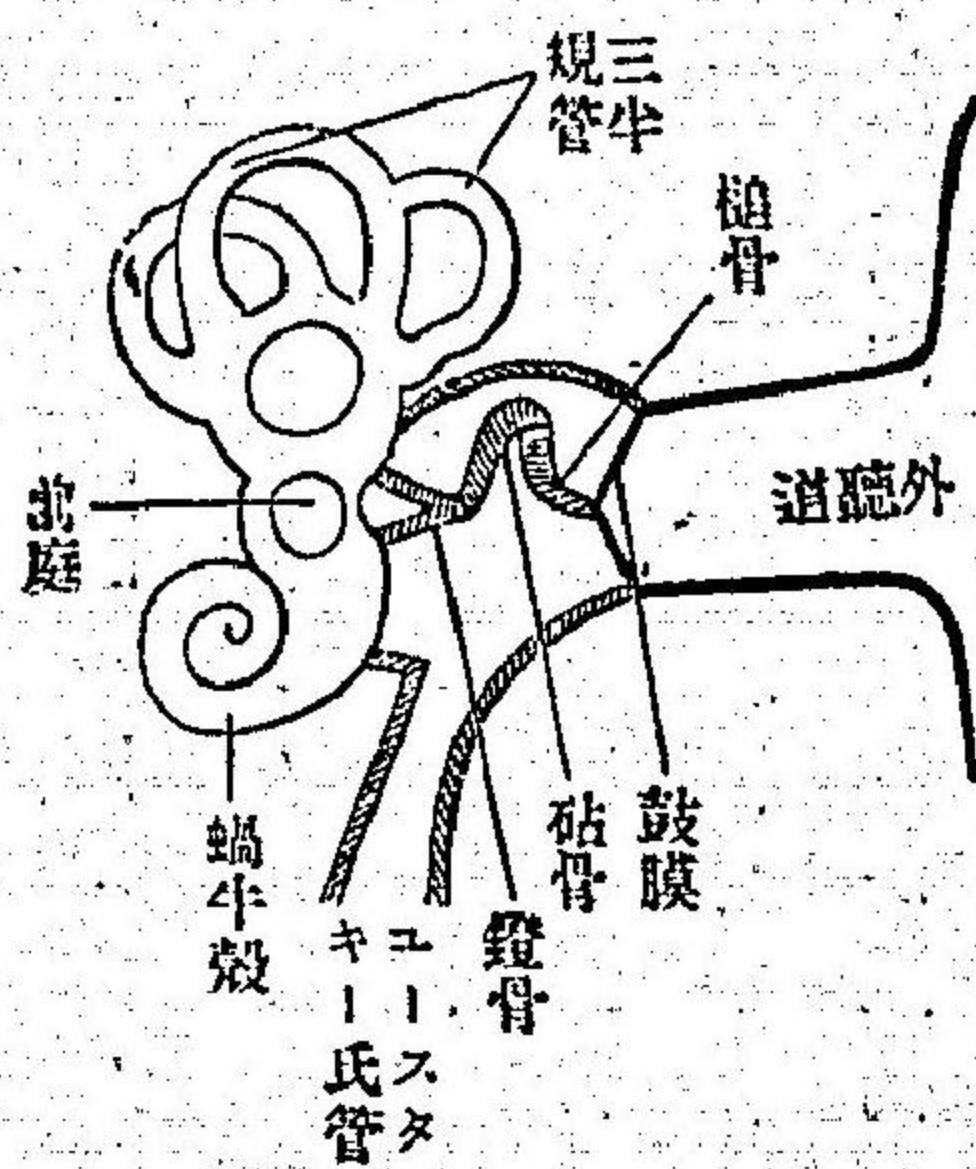


たくなる。

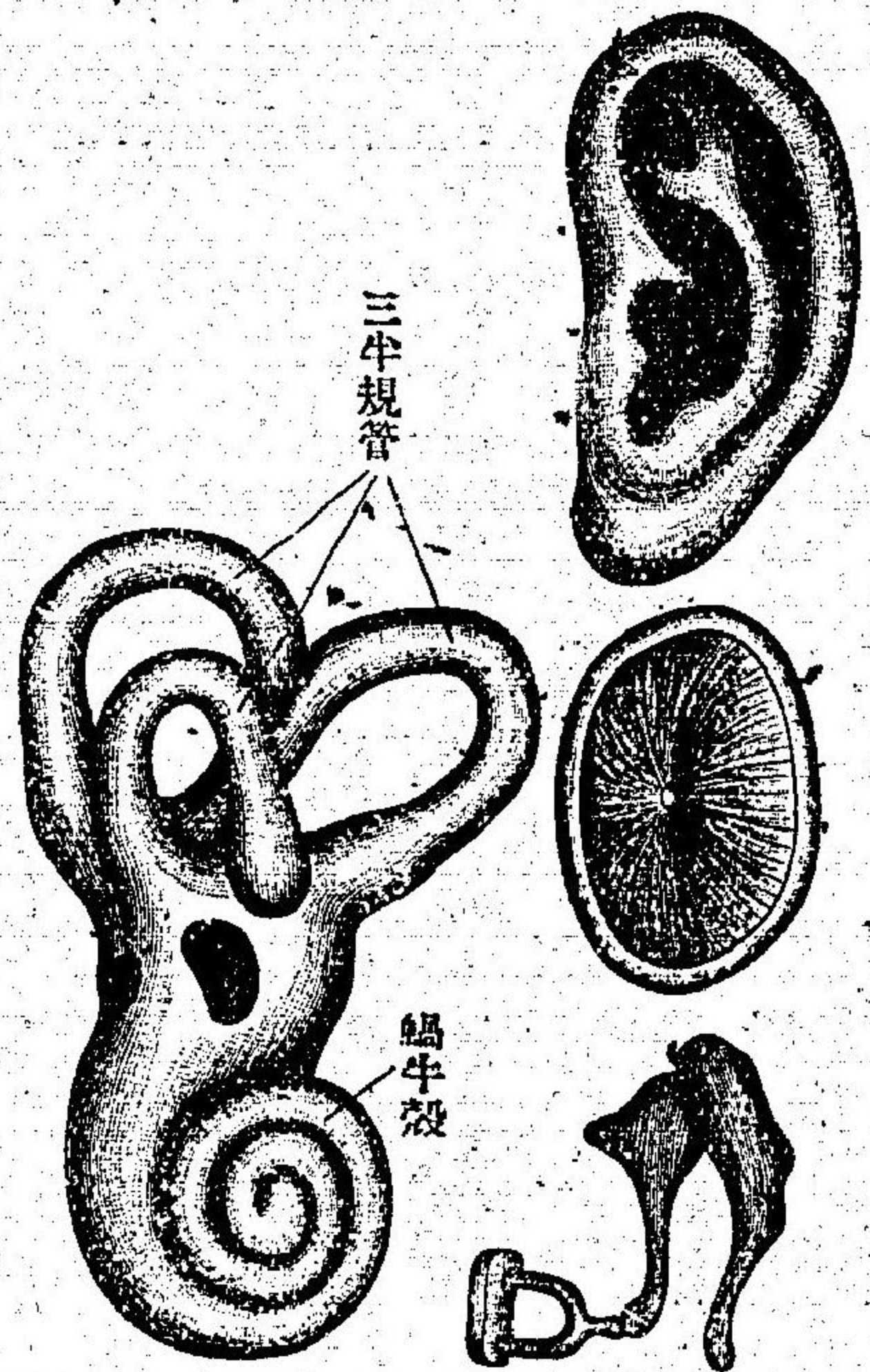
耳は其の外部は甚だ奇態なる膜からなつてゐる。之を耳殻といふ。内部は喇叭の如くに漸々其の管が細くなり、大凡一寸程で鼓膜といふ膜に達す。其の間を耳道或は外聴道といふ。鼓膜より外部の全體を外耳と名づく。鼓膜より内方を中耳又は鼓室といふ。中耳は空洞で、中に三個の聽骨即ち槌骨、砧骨、鐙骨といふ小さな骨がある。其の骨は皆續いて一端は鼓膜に著き、他端は内耳の卵圓窓といふ部に接して附着す。中耳内の空氣はユースタキア管といふ管に依つて中耳の底より咽頭に通ず、故に口を閉ぢ鼻を塞ぎ、空氣を送るやうにすれば、空氣は此の管より中耳に押し入り、鼓膜を外へ出さしむる爲に暫時物を聴く力減するものである。中耳の奥を内耳といふ。内耳は硬骨の中に在る空洞で、聽神經の

圖八十三第 型模の耳



いふ部に接して附着す。中耳内の空氣はユースタキア管といふ管に依つて中耳の底より咽頭に通ず、故に口を閉ぢ鼻を塞ぎ、空氣を送るやうにすれば、空氣は此の管より中耳に押し入り、鼓膜を外へ出さしむる爲に暫時物を聴く力減するものである。中耳の奥を内耳といふ。内耳は硬骨の中に在る空洞で、聽神經の

圖九十三第 部各の耳



解剖學生理學の大要

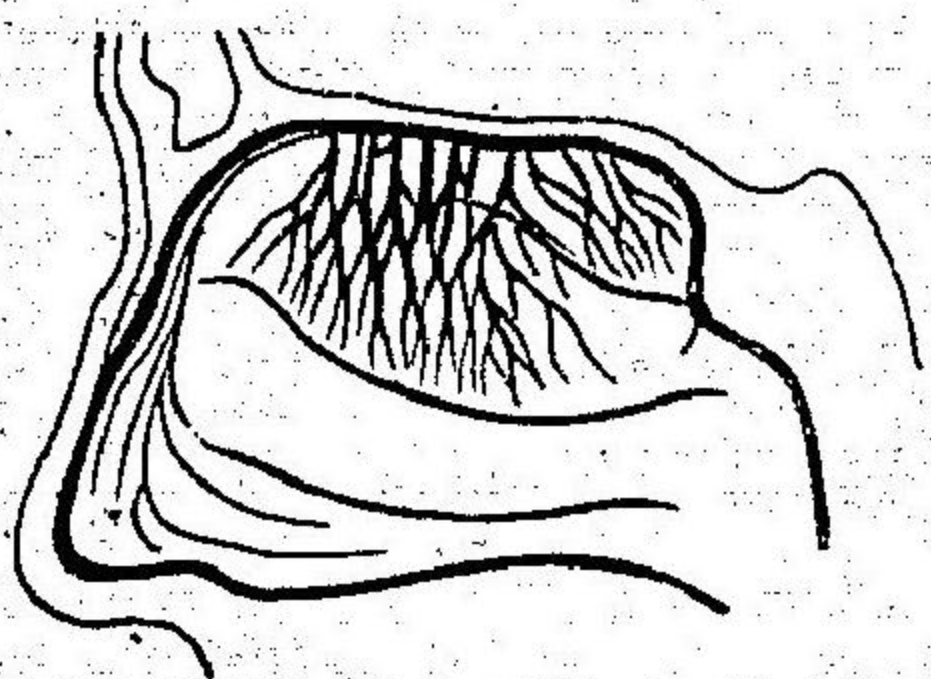
細かい纖維が布かれてある所である。前方には前庭といふ殆ど小麥粒程の大きさある部があつて、三半規管と蝸牛殼とが開通してゐる。詳しく言へば内耳は一定の液體を含んだ複雑な腔室で、二部に分る。第一は即ち前庭と云ひ、前述の卵圓窓膜を以て中耳に接し、上中下の三半規管が前後兩端共に茲に開口す。第二は所謂蝸牛殼で、其の形恰も蝸牛の貝殻に似たる所より此の名が附いたのである。其の蝸牛殼は螺旋の様に巻くこと二回半で、中にコルチ氏纖維といふ微妙なる纖維が堅琴の様に正しく列なつてゐる。これは聽神經が扇狀に數千の分枝をして此の管に

二は所謂蝸牛殼で、其の形恰も蝸牛の貝殻に似たる所より此の名が附いたのである。其の蝸牛殼は螺旋の様に巻くこと二回半で、中にコルチ氏纖維といふ微妙なる纖維が堅琴の様に正しく列なつてゐる。これは聽神經が扇狀に數千の分枝をして此の管に

布かれたのである。
空氣中で一體が若し他體を撲てば空氣は忽ち波動を生ず、恰も石を水中に投ずれば數多の波紋が出来るやうなものである。斯様にして生じたる空氣の波は開いた外耳の中に集り耳道から進んで鼓膜を打ち其の震動が中耳の聽骨を傳はり内耳の液體を顫動す而して蝸牛殼の堅琴は此の液に觸れてゐるから亦顫動せられて遂に聽神經から大腦に訴へ所謂聽覺を生ずるのである。

第四十圖

嗅神經の分布を示す



鼻は主に軟骨から成り筋肉を以て之を被ふ。後方は咽頭に通じ内面は粘膜にして鼻中隔を以て左右に分つ。嗅神經は頭腔内から鼻腔の天盖に在る篩骨といふ篩の様に小孔のある骨板を通つて鼻の内面に蔓つてゐる。借物質の小分子が空氣に混じて鼻腔に入れば嗅神經興奮して之を大腦に傳へ茲に香臭の感を生ず。此の感は食物の善惡を撰び又味感をも助くるものである。松茸が旨いといふも、第

一に其の香馥郁として食欲を興さしむるからである。

舌は運動の自在なる筋肉から出来てゐて其の上面に數多の乳頭といふ小突起があり其の突起には味覺神經の末端を藏めてゐる。又若し舌を出し一滴の酢を落せば忽ち其の乳頭が著しく見ゆるものである。味を感ずる所以は溶解したる物質が味覺神經の末端を刺戟し之を大腦に傳達するからである。

真皮の乳頭中には神經の末端が特異な形をなしてゐる之を知覺突起といふ。物體の硬軟或は寒熱などが皮膚に觸るれば知覺突起が之を腦髓に傳達するのである。

凡て五官の感覺は其の熟練に従つて大に發達するものである。例へば素人が眼底検査鏡で眼底を見ても糝糊として分らぬけれど其の道の者は明了に見え三味線の調子神地は最初分らぬけれど弾き慣るゝに従ひ容易に覺るなどの様なものである。殊に觸覺は著しく進歩するもので彼の盲人が赤黒等の色を識別し醫士は腹部を觸診して内臓の容態を知るに至つては教育熟練の効嗚呼亦大なりと三歎せねばならぬ。

前にも述べた通り、吾等は常に一定の體温を保つて居る。夫れ體温は斷間無く發動する一種の活力で、其の根源は畢竟するに體内に取つた榮養物中の潜力と呼吸作用に由つて空氣から吸つた酸素との中に在るのである。に潜力とは物體中かぬ所の換言すれば榮養物中の潜力は恰も潜熱と看做すべきもので、それが體内に於て酸素の爲に燃焼せられ、初めて熱となるのである。例へば炭素炭酸に化し、水素水に變すれば茲に多量の熱を發生するやうなものである。右の外、理學的作用、例へば呼吸器内に於る空氣流の摩擦、消化管内容物の摩擦或は筋腱及び關節面の摩擦などの如きも少量の熱を發生するものである。斯様にして發する熱は筋骨運動及び精神使役の多少、或は氣温の變換等に依て時々多少の高低を來すと雖も、皮膚發汗の増減等に依て之を調節し、常に同一の度に保ち攝氏の三十七度内外を昇降して居るとは、玄妙なる仕掛と謂はねばならぬ。されど主なる調節器即ち皮膚をして或は指を以て其の放温を遮るとか、或は劇しい寒冷などの刺戟を與へながら假寢などして居る時は、皮膚の血管を収縮せしめ、爲

に温熱體内に鬱積し、體温は三十八度乃至四十二度にも及ぶ之を發熱と云ふ。斯うなれば熱を發す可き材料となる榮養物を容るゝ必要が感じ、爲に食慾は減り組織は燃え、遂に瘦せ衰ふものである。事茲に至れば醫士の手を煩はすより外に仕方は無い。之に反して健康なる身體は常に幾分かづゝ燃焼し去るけれども食物は之を補ひ、燃えたる灰、即ち老廢物は排泄器より之を體外に除き出し、昨日取つた滋養食物は今日は變じて筋骨となり、今日筋骨となつたものは明日は分解して老廢物となり、加減々々と新しい物來れば舊い物去り、「日々新に又日に新なり」といふ工合になつて行く、之を新陳代謝といふ。故に最初精密に體重を秤り、次に取る所の蛋白質及び含水炭素等を檢すれば其の加減する道理を直ちに試験せらるゝであらう。吾等人類が自由に運動し、自在に思考することの出來るのは、筋骨及び神經の組織の成分に酸化燃焼する性があるからである。更に又繰り返す様なれど、健全なる成人の身體は其の運動或は思考して其の度に酸化燃焼したる物質の量と消化器官から血液中に吸収する物質の量と常に相平均して、今日も明日も殆ど同様の身體を維持するのである。けれども乳

房離さぬ幼児から少年は其の新陳代謝相平均して居たならば何十年を経ても小兒は小兒少年は少年で、其の身體の量を増すことは到底出来まいが、自然の方則は斯る不完全なものでは無く、小兒少年の間は榮養器官の動作が非常に盛んで其の運動或は思考に依て失ふ物質の量よりも日々取る所の食物の量が多く、而してそれが消化吸収して身體に同化し、今日より明日、明日より明後日と、一定の成年までは次第／＼に長大に進歩して行くものである、之を名づけて生長といふ。斯様に生長して成年に達すれば動作の強弱等に應じて新陳代謝の平均を僅かに變ずることあるも、常に一境界内に進退して其の區域を越ゆることは無い。然るに若しも身體が分解し排泄し得るよりも過分の滋養物を取れば體中に沈着す之を肥滿といふ。之に反して取る所の滋養物よりも分解排泄が勝つ時は從つて體量減少して見るも憐れな姿になる、之を羸瘦といふ。肥滿羸瘦は何れも生理的で無いことは言ふまでも無いから、茲に衛生法を守つて其の平均を保つやうにせねばならぬ。「過ぎたるは猶及ばざるが如し」といふ金言は、これにも能く當て嵌つてゐる。抑、人體の各器官系統は箇々獨立するもので

は勿論無く、筋肉の収縮に依て骨片と骨片との位置を變へ骨格あるが爲に筋肉これに著き、筋肉の収縮は神経系の刺戟を待ち、神経系の決意は、五官が外界の有様を材料としたる結果である。其の五官、其の神経或は其の筋骨等は消化器の力を借つて、外界より得たる食物が其の組織を作るのである。之を作るには之を持ち運ぶ物即ち循環器を待たねばならぬ。循環器は又其の食物と呼吸とに依て其の分を全うするなど、互に轉々相關係して其の役目を盡すのである。されば吾等萬物の長たる者は、須く其等の道理を知つて寒ければ暖を取り、暑ければ放温の方法を講じ、或は運動思考の動作少ければ食量を減じ、其の動作多ければ食物を増し、或は左手を用ひた後は右手を用ひ、右足を使つた後は左足を使ひ、其の他神経に、五官に過不及無く、何れの組織も平均に新陳代謝して十分に其の活力を發揚する様に計らねばならぬ、之を全身の調整と云ふ。

全身の調整を計るは固より衛生の基礎である。故に衛生は源を生理に發し、生理は解剖を心得て居らねばならぬ。されば解剖生理衛生の三つは甚だ視密なる大關係あるもので、而も衛生は最終の目的である。換言すれば衛生の爲に解

剖も生理も研究するのだと断言しても可い位だ。何人も此の道理を心得て大切なる衛生を實踐せねばならぬ。これ子が本書を著したる主眼の目的である。

解剖學生理學の大要終

救急療法

人は衛生を實行して身體を健全にするやうにして居れば必ず無病で一生を果されようか、此の質問に對しては神ならぬ我等は否と答ふるであらう。時に水に溺れぬとも保し難し時に掛洋燈が頭上に落ちぬとも定められず、其の他如何なる急劇な病に罹るかも知れぬ。縦し己れ罹らぬにしても大切なる父母兄弟や親愛なる朋友などに有つた場合には何う處置したら善からうか、醫士を招く、固より招かねばならぬ。然れど、之を招くまでには多少の時間を費やさねばならぬ。其の時間が急病には命脈の繫かるところである。嗚呼思つてこゝに至れば救急療法も亦研究しておかねばならぬ。然れば左に最も有り易い事柄を逐一述べて見よう。

中毒病これは其の中毒した其の物が原因で

酒精中毒

酒精中毒——「病狀」顔色蒼白くなるか、或は紅くなり、筋肉弛み、呼吸は恰も野の

やうな音を發し脈の搏ち方が遅くなり、或は嘔吐し、或は不隨意に大小便を洩し

救急療法

酸類中毒

其の大小便が劇しいアルコール臭を放ち遂に沈睡するやうになる、これは純粹の酒精ばかりで無く通常の酒でも多く飲めばこの中毒に罹るのである。「療法」第一に冷室に移し、頭部を頻に氷を以て冷し、頂部と足には芥子泥を塗り屢々灌腸をなし濃煎珈琲或は茶を飲ましめ或は温浴中背部に冷水を注ぐなどすると大に奏効することがある。

炭酸中毒

酸類中毒——「病状」口内咽喉食道胃粘膜の腐蝕を發し、それがために大に疼痛を感じ、それより血便を洩し、苦しみ悶へる中に次第に虚脱ふる極端往生寂滅するのである。「療法」濃厚な石鹼水を飲ましめ又麻痺涅矢亞を水に混ぜて服ましめ、或は白墨曹達石灰又は石鹼及び灰などを服ますが可い、或は壁土を碎き之を牛乳又は水に混ぜて服すも可い。
炭酸中毒——「病状」頭痛に續いて眩暈し、従つて耳鳴り皮膚蒼白く變り呼吸は止らうとし、體温は降り遂に物言ふことも出来ぬやうになつて斃るゝものである。「療法」其の斃れぬ先に速かに新鮮なる空氣に逢はしめ人工呼吸法人工呼吸機を行ひ、ブランダ一の如き興奮劑を與へねばならぬ。

麻酔劑中毒

麻酔劑阿片莫阿比理中毒——「病状」輕症は頭痛疲倦半睡位で濟むけれど、重いのは昏睡に陥り、筋肉弛み呼吸緩くなり脈搏は細くて而も遅くなり瞳孔は狭小になつて漸々衰ふるものである。「療法」第一に芥子と微温湯とを用ひて吐かしたる後濃い珈琲か茶を飲ましめ、皮膚を捻り頭髮を引き、或は其の顔面に水を注ぐなどし、決して眠りに就かしめてはならぬ、眠りに就かしむればそれなりに死んで了ふ。

水銀中毒

水銀甘汞昇汞中毒——「病状」口内一種の鐵味を覺え嘔吐を頻に催し胃腸に過劇なる痛みが起り、血液の混つた大便を下痢し、恰も虎列刺のやうな風になつて漸次虚脱するのである。「療法」これには多量の牛乳と卵白とを飲ましめ、又穀粉を水に和して、これも多量に食はしむるが宜い。

銅中毒

銅中毒——「病状」急性の胃腸炎を起し、綠色の嘔吐をなし、綠色の大便を下痢し、而して裏急後重となり續いて黄胆を發し、呼吸困難虚脱に陥り、遂に死に至るのがある。「療法」先づ芥子と温湯とを飲ましめて十分に吐かしめ、卵白或は曹達を用ひ、又大量の牛乳を飲ましめ、傍蜂蜜糖水なども亦大いに効を奏することが

ある。兎に角銅器で飲食物を煮るのは大に危険であるから錆を能く落して使用せねばならぬ。

石炭酸中

石炭酸中毒——(病状と療法を)誤つて石炭酸が皮膚に付き爲に腐蝕を起すといふやうなことがある然うすると其の部の知覚が鈍くなり其の部の皮膚が白くなつて潰瘍になる若し其の侵された皮膚の面積が廣ければ石炭酸が体内に吸収せられて恐ろしい中毒が起る。故に濃厚なる石炭酸が皮膚に附いたら直ちに五十倍の重曹水を綿に浸して其の石炭酸を拭き取り或はアルコールで洗ふが宜い。若し又眼中へ入り込んだ場合には油を注ぐと石炭酸が其の油に吸収せられて腐蝕する力を減するものだ。次に誤つて嘔み下した折は胃に非常な疼痛が起りガア／＼吐くものだ。斯る場合に最も宜い療法は速に胃唧筒で胃を洗滌するのであるが之は醫師で無れば出来ぬことだから素人は一刻も早く石灰水を造り服むが肝要だ。併し之で治るもので無いから一方には瞬時にも早く醫師を招かねばならぬ。次に肛門并に膣などを洗滌する節誤つて幾分か強い石炭酸水を使用した時は其の部を氷水で洗ひ冷却すれば眞の炎症を

硝酸銀中

起さず済むものだ。

硝酸銀中毒——(病状) 硝酸銀は醫藥や寫眞並に鍍金等に使用するから往々其の中毒に罹ることがある。乃で之が粘膜につくと其の部分が大に痛み甚しきは潰瘍が出来るものだ。又若し硝酸銀を誤つて嘔み下すと爲に死ぬやうなこともある。併し此の「療法」は比較的容易なもので即ち直ちに食鹽の溶液を飲ますと食鹽は硝酸銀と化合してクロール銀となり左程に腐蝕性の強く無いものに變る而して又更に吐瀉を興へるとクロール銀が吐き出される。去りながら其の吐瀉の無い折は更に多くの食鹽水を用ふると胃中のクロール銀を吐き出すか或は腸に下つて左程の害をなさずに大便と共に排出せられるものである。皮膚に塗いた場合にも矢張食鹽水で洗ふが肝要なれど若し又十%の沃度加里液で洗へば尙一層に宜いものである。

石灰中毒

石灰中毒——(病状療法)石灰は誰も能く知つて通り水に觸れると熱が起りそれが手足などに塗くと火傷することがある。又其の粉末が若し眼に入ると涙に溶けて熱を起し眼を腐蝕することがある。斯る場合に直ちに水で洗つてはな

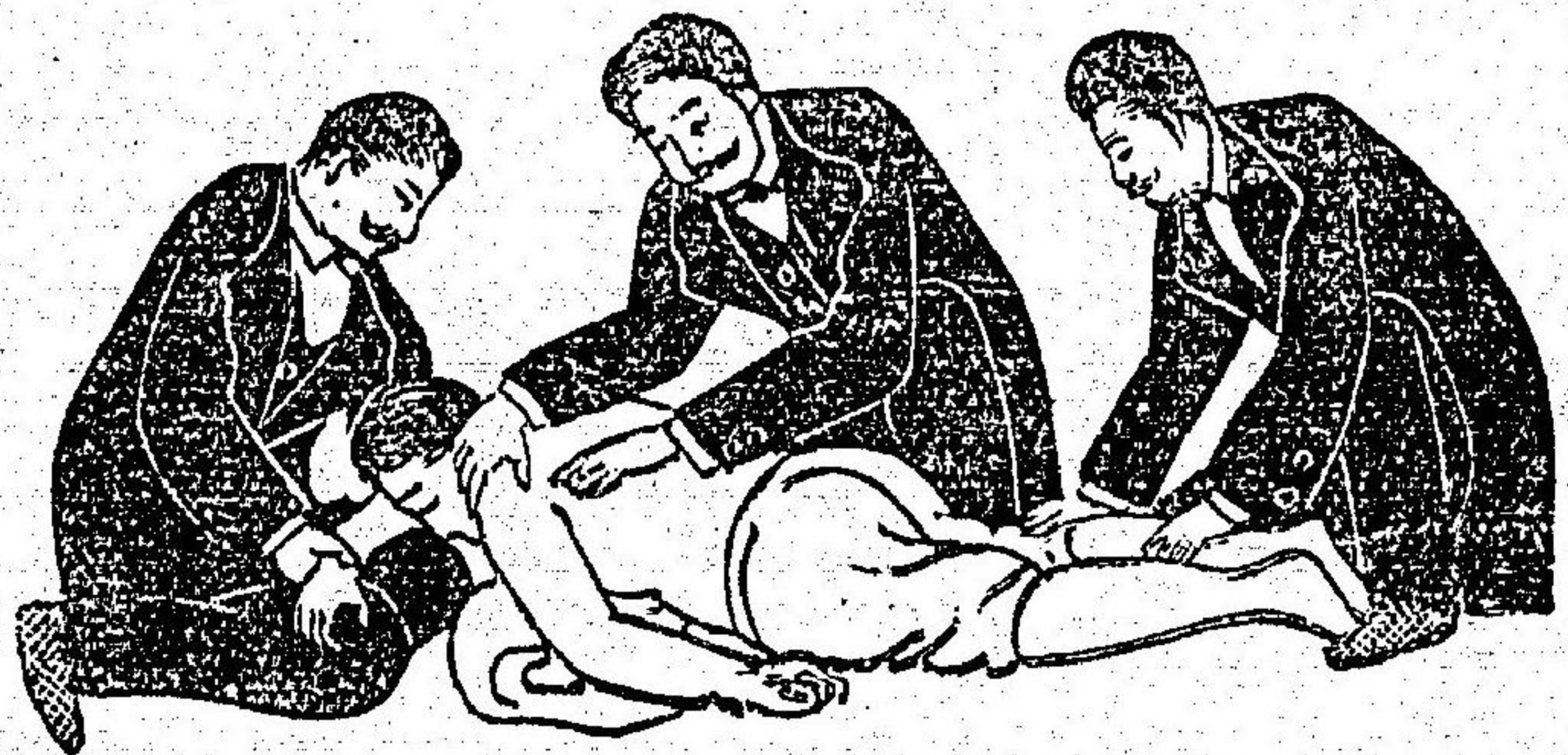
らぬ。然らば何うしたら宜からうか云ふに、早く清潔な油を滴らし込み、後綿で拭き取り、然る後にスポイトを用ひ、水で洗ふのである。若し又溶した石灰が眼に入り込んだら酸類で中和するのだ。之には極く薄い即ち千倍の醋酸液を用ひ、其の後水で洗ふのである。又石灰の粉末が口の中又は肛門陰部等に入り込んだ時には矢張り油を滴すか或は脂肪を用ひ、後氷水又は冷水で洗はねばならぬ。又誤つて石灰を嘔み込んだら、之も早く油或は牛酪を飲み然る後氷片を含でるが宜い。

右の外魚類肉類又は野生植物などの中毒がある。けれど兎に角芥子と温湯とを以て其の毒物を吐かしむるといふことを第一に行はねばならぬ。

人工呼吸法

法氏ルハルヤシルマ

(一)

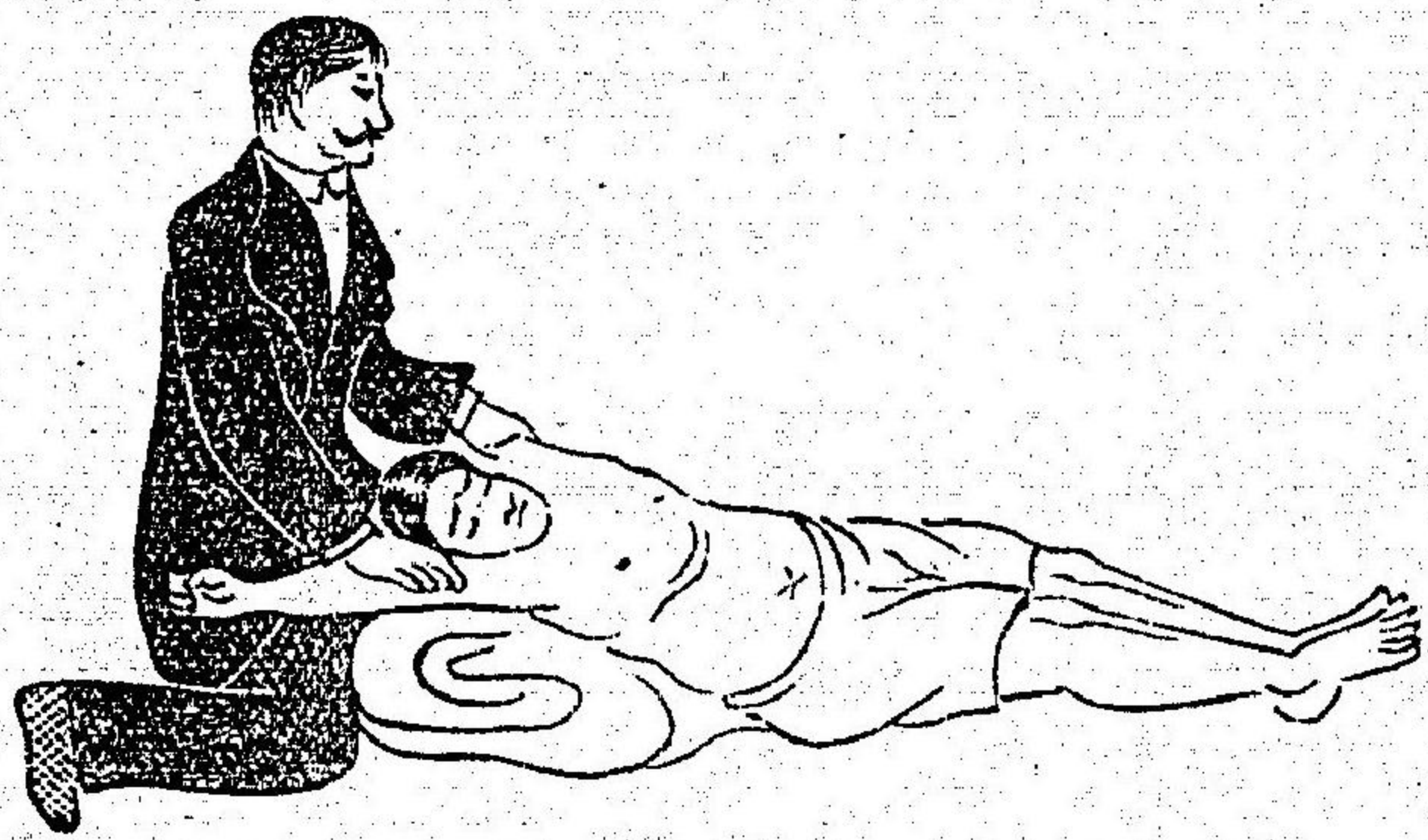


(二)

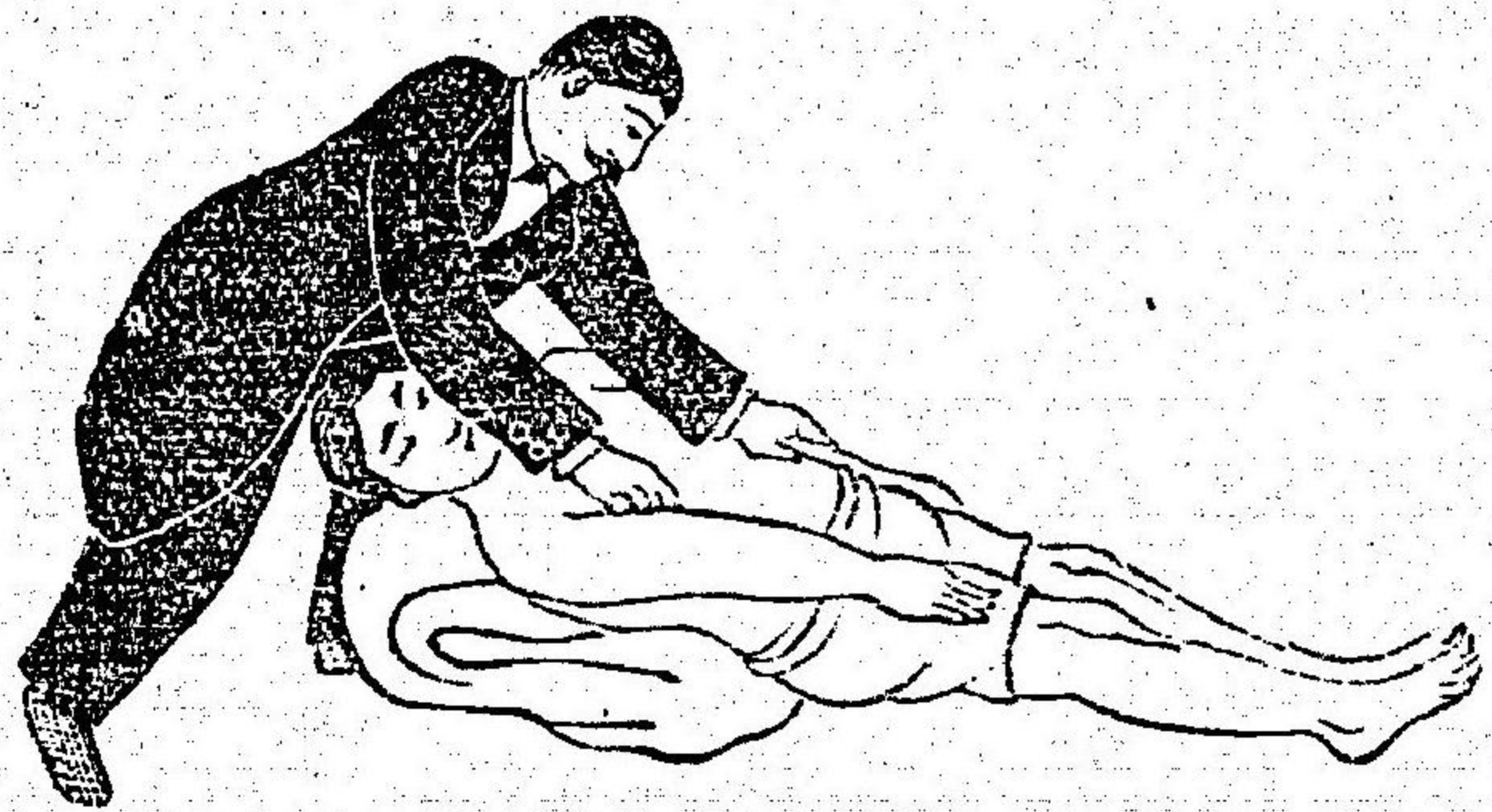


法氏ルテスエツルジ

(一)



(二)



救急法

一一八七

一一八六

甲、葱の根を一寸ばかり切り、其れを鼻の中に入れて、或は羽根又は藁様の物を以て鼻の孔を刺戟するか、或は安母尼亞瓦斯酷酸依的里などを嗅がしめ、然る後冷水で浸した布片を以て假死者の顔面及び胸部を軽く打ち、或は皮膚に芥子泥を塗つて刺戟するが宜い。

乙、假死者の鼻の孔を閉ぢ、術者の口を直ちに假死者の口に接し、大氣を吹き入るゝが宜い。これは空氣を澤山肺臓に送るためである。

丙、右の圖にあるマルシャルハル氏法を施すが良い。之は假死者の衣服や帯を脱ぎ、其の體を伏臥せしめ、衣服を巻いてこれを胸廓上部と床との間におき、術者は己れの掌を開き、病者の左右肩胛骨の間に當て、平等に壓迫して、(一)圖の如くし、直ちに横に臥さしめ、(二)圖の如くし、又直に伏さしめ、又直ちに横にし、斯の如く左右交替に轉がし換へ、一分時間に十五回程も繰り返すのである。

丁、ジルウエスナル氏法も良い、其は左圖の如く假死者の頸部に枕を入れ、胸部を高く起し、仰臥にし、助手をして舌を牽き出さしめ、而して術者は假死者の頭

邊に膝立ちし其の兩手の肘關節部を取り兩手を強く舉げて一圖の如く頭上に伸し直ちに術者は立つて假死者の手を降して圖の如く胸の側を打たしむ此の如く兩手を上下すること一分時間にこれも十五回程行うのである。戊溺者は前法と其の方法を異にせねばならぬ。先づ溺者を裸體にして伏臥せしめ其の脱いだ衣服を巻き胃部と地上との間に入れて胃部を最も高く口を最も低くするといふ位置を取らしめねばならぬ併し口を低くするため前額を地上に接けてはならぬ。而して術者は兩手を以て溺者の胸部を壓しては弛め繰り返し之を行へば五六回に及ぶと胃及び氣管中に入り込んでゐたる水は口や鼻から流れ出づるやうになる。斯うして水が出ぬやうになれば今度は却つて仰臥にし枕を脊の下に入れ胸を高く支へ肩を低く下にし頭を張らしめ兩手は頭上に伸して交又せしめ助手をして布片を溺者の舌に纏ひ其の舌の退き縮むを防ぐため固く持たしめておかねばならぬ術者は溺者に跨がり其の腰部を自身の股間に夾み膝立ちして兩手を溺者の肋軟骨内端の上に接けて其の拇指を胸骨劍尖の部に其の他の

四指を肋間に當て胸部を壓し而して術者の肘を固定しておいて毎二三秒時に横隔膜に對して上部及び背部に向ひ徐かに壓迫するのである。さすれば壓された胸廓肋骨の彈力に由つて一時に擴がり吸氣作用を起すやうになる之を行ふこと一分時間に七八回するが良し。

己初生兒に至つては大人と其の方法を異にするが便利である即ち患兒を仰臥になし術者は其の胸部に居て兩手を伸して初生兒の同側の胸の上部に拇指腋窩に示指を接げ背部には他の三指を固定し而して初生兒の體を下に轉動するのである。即ち體を上げて術者の頭上に達すれば再び之を下げて前位に復し又更に上げては又下し數回繰り返せば可いのである。右の法は何れも迅速に行はねばならぬ若し躊躇時を移してから行ふても何の甲斐も無い故に事無き時に能々覚えておくが人たるもの道である。

眞死と假死との鑑別

舊時代の醫術では呼吸が止つて居れば既に眞死だと考へ之を検する方法として鏡を其の口及び鼻の前に置きそれが曇れば假死曇らねば眞死となし或は燈

眞死と假死との鑑別

心を同じく口及び鼻の前に置き、動けば假死、動かねば真死、又蠟燭を點火し、之も口及び鼻の前に置き、其の火が動く動かぬとに依て真假を定めたのだ。が併し呼吸が止つて居ると然らざるとは必ずしも死生の區別にはならぬ。中には呼吸が止つてからでも蘇生することの多いものだ。次に又脈搏が絶えれば真死とし、或は心臓の鼓動が止めば真死と看做して居たことも有つたが、何れも確かで無くて呼吸や脈搏及び心臓の鼓動が止んだ人でも蘇生した例は幾らもある。次に皮膚の色が血の氣無くて蒼白くなつたのを真死と看做したこともあれど、之も黄胆に罹つてゐる人や、日に焼けた人などは真死でも蒼白くはならぬから蒼白く無いとて真死とする譯にも行かぬ。次に身體が冷たくなつてると真死にしたものだが、之も當にはならぬ、何となれば空氣の溫度如何に依るもので寒い時には皮膚が冷たくても蘇生することがあるし、熱い時には温かでも死んでることがあるからだ。次に皮膚の知覺が失せて居れば真死とし、即ち皮膚を捻つて見たり針を刺して見たりして少しも感應が無いと之は逆も駄目だとしたが、此等も確かな方法では無い。其の他齒齦を擦つたり眼を摩でたり、刺戟

火傷

火傷

性の蒸氣を直腸に吹き込んだりして確めようとする者もあるが、矢張證據にならぬ。然らば如何なる事が確然たる生死の鑑定かと云ふに眼の角膜に觸れて其の反應を見、次に其の光澤其の色が無くなつてゐて、腕むやうな眼附をしてること及び瞳孔の反應が全く無いことなどは真死の徵候である。それから又死者の眼球を壓すと柔かなもので軽く壓しても凹むものだ。次に最も確かな徵候は死斑とて紫色の斑が身體の床に附いてる方に出て來ることだ。之は時を経るに従ひ顔耳胸及び腹部にも出來、尙時を経れば強直の起るものである。斯の如く真死假死の鑑別は容易なもので無いから、早急な場合には斯る穿鑿は後廻とし、兎に角人工呼吸法を實行する方が宜いのである。

以下説く數病は夫々の科で述べたけれど、並には其の早急の場合に於る處置法として再説する。

突然掛洋燈が頭上に落ち、火が一面に衣服に點いたとせんか、如何に悠々寛大の長者も狼狽せずには居られまい。若し狼狽した餘りにまご／＼時を移し、火の勢を益々盛んにしたならば、遂に全身火傷となつて治療を施すに術無く、即時其の儘火

葬となつて了ふのである。然らば何うしたら可いかといふに、衣服に點火するや否や、直ちに其の人を地上に倒し、速かに肩掛なり、蓆なり、毛布なりを點火せる衣服の上に被へば、火は必ず消ゆ、消えたならば多量の水を注いで、然る後其の人を温室に移し、鏡刀、或は鋏刀を以て其の衣服を切り取るが可い。始め火の點いた時、單衣物ならばいざ知らず、重着をしてゐたり、殊にシャツ、或は洋服を著てゐるとすれば、之を脱ぐに多くの時間を要するのみならず、火を皮膚の上に移す基である。火傷をしてゐる部分には冷水を注ぎ、疼痛の止むを待つて、亞鉛華粉を撒くなどは皮膚の章で説いたから略す。

咽頭閉塞

餅、或は其の他の食物を一時に多く嚥み下さうとして、其の食物が咽頭に滯り、眼を白黒にして苦しむことがある。斯様に苦しんでゐても食物は依然として咽を下らず、又之れを處置することも知らねば、遂に其の儘死んで了ふ。斯る急劇なる場合には、苦しむ人の肩胛骨と肩胛骨との間を握り拳を以て、トク／＼打てば、其の響で食物が關所を通り越すのである。若し口を開かせて咽頭に食物が

日射病

見ゆるならば、匙の様な物で舌を壓へ、鍋を以て撮み出すが可い。さうで無い時には、酢又は大根おろし、或は芥子湯を飲ましむれば容易に咽を下ることもあるし、又食物を嘔吐することもある。

日射病

日射病は凡て劇しい熱に逢ひ、始めの中はタラ／＼汗を流してゐるが、後には眩暈を發して卒然人事を失ふのである。これは日光のみに限らず、煖爐などの熱のためにも發することがある。何れにもせよ倒れてゐる人を見たらば、直ちに冷水を頭部、或は胸部に注ぎ、第三、或は第四の呼吸法を行へば氣がつくものである。

凍冷

凍冷

これは日射病と反對に、寒冷の爲めに倒るのである。朔風凜々たる吹雪の日に長い旅行をしてゐると、寒冷の氣が骨に徹るやうになり、血液の循環は漸々緩み、遂に倒れて了ふ。之を助くるには直ちに熱を加へてはならぬ。先づ此の人を寒い室に移し、雪を以て其の氷冷したる部を摩擦し、其の部が尋常の色を生ず

るに至れば其の濕ひたる衣服を脱ぎ取り、能く其の全身を拭き、之を毛布に包み、漸次に少量の茶を飲ませ次に弱いブランデーを與へ、次に火を近づくるといふ順序である。

衄血

これは人の驚くものではあるが、大抵の場合には恐るゝに足らぬものである。されど其の出血淋漓として止まぬ時には端座して鼻を拇指と示指との間に挿み之を壓へてをれば遂に止まるものである。これでも止まぬ時には氷、或は冷水に浸せる布片を頂部におき、ドン／＼冷すが可い。而して明礬を溶かした液に綿を浸し之を鼻孔に挿み入るゝを可とす。

癩痢

神經性の遺傳ある人、或は蝨蟲が宿つたり、或は高處から落ちたりなごして、頭部を傷めたり、或は酒の飲過ぎ、或は非常に驚いたりなごすると下方より上方に微風が昇るやうな感覺を發し、眩暈が發つて卒かに倒れ、人事不省となるものである。其の倒れようとする時は大聲を發して叫び、顔色は蒼くなり、眼の球を旋ら

し、口を緊しく閉ぢ泡を出し握拳を作り、不隨意に大小便を洩すものである。今や發らうとして居る人を見たらば多量の食鹽水を飲ましむるが可い。口には物體を含ましめ、自から舌を咬むを防がねばならぬ、衣服は緩く解いてやるが可い。其の他の處置は内科學の神經病篇に説いてあるから略す。

胃痛

これは俗に癩といふ病で、胃部に甚しい痛みが起り、切るが如く、灼くが如く、甚だ苦しむものである。之を苦しむまゝに放任つておけば痛むなりに死ぬることがある。斯る人には直ちに胃部に芥子泥を塗り、或は煮た温かい薊蕪を布に包みて當てるが可い。又、日本酒三勺程を三四度に服ましむれば仲々効力の有るものである。平生酒を嗜む人ならば其の割に應じて多く服ますが可い。其の他の處置は之も内科學の消化器病篇に詳しく書いてある。

止血法

若し過つて外傷を受け、血管に孔が開くと其の孔から血液が外へ流れ出ることは何人も知つて居る事柄であるが、此の孔にして小なれば左程憂ふるに足らぬけ

れど、若し大血管である場合には多くの血液が流れ出て甚だ危険である。されば茲に其の救急法を知つて居らねばならぬ。乃で疵を受けたら第一に身體を安静にし、次に四肢の出血ならば強く之を曲げて壓迫するが肝要だ。小さな血管ならば其の出た血液が凝固して自然に止るけれど、大血管であるとならうは行かぬ。又一旦止つて居ても身體を動かした爲に再び出て來ることがあるから安静を守るといふことが大必要である。次に血の出る部分を高くしておかねばならぬ。即ち其の部分を吊して置くとか、或は枕をして置くといふやうにするのである。更に又繰り返して言ふやうだが、手足などの出血するときは之を強く曲げ、其の血管の一部が折れ曲つて塞がるやうにするのだ。例へば手掌の出血は手首を強く曲げ、前膊の出血時には肘關節を強く曲げる類だ。又脚の方の出血の場合にも同じ道理で、即ち下腿ならば膝を曲げるのである。斯くて又血管を塞ぐ爲として壓迫を加へるのである。即ち血液の出る部分の上方を縛り、血の出る場所にはガーゼを貼て、尙血が出るならば其の出血部よりも心臟に近く隔つた場所を護謨管で縛るのだ。併し護謨管が無つたら、何でも有合の物

卒倒

でも縛らねばならぬ。其の縛る場所は頭や頸の出血には其の出血の下方、手足の出血には其の出血よりも上方を縛るので、換言すれば出血の場所と心臟との間で其の血行を中斷すれば可いのである。次に空洞の出血即ち肛門や鼻腔の如き出血には綿又はガーゼなどを栓子として入れるのだが、此の場合に用ふる綿、ガーゼは勿論消毒した物で無ればならぬ。尙此の章を終るに臨み、一言しておくと、其の出血の場所に塵埃でも入り込んでる場合には五十倍の石炭酸水で洗ひ、清潔なる綿をあて、固く縛るが宜い。けれども石炭酸も綿も得られぬ時は水でも洗ひ、布片でも何でもあて、置くが可い。途中で圖らぬ災難に出逢ひ、大きな出血があつた場合は己れの着物の袖でも引きちぎり、壓迫縛をして置き、直ちに外科醫士に行くのだ。

卒倒

卒倒は如何なる原因で起るか云ふに、一言に盡せば貧血を起すためである。乃ち空腹に過ぎるとか、勞働を過度に行ふとか、衣服を固く締め過ぎて呼吸が十分になるとか、或は出血したとかに起る。殊に心臟の病氣に罹つてゐる人や神

経質の人に起り易い。而して此等の人が久しい時間立つてゐる揚句に起り易いものだ。又手術を受けて劇しい疼痛を感じた爲に起ることもあるし、又非常に驚いたり怖れたりした爲に起ることもある。例へば我が兒や我が夫の頓死に逢ひ、爲に婦人の卒倒する例は往々あることだ。乃で此の卒倒せる人を如何に處置するかといふに先づ平かに仰向に臥かし、頭の方を少し低くし、涼しい室に移し、襟巻及びツボンツリ等を脱がすが肝要だ。而して軽い卒倒とすれば皮膚が粘膜かを少しばかり刺戟すると大抵は直に醒めるが、少し重いのは顔や胸などに冷水を吹きかけるか、或は手拭に冷水を浸して夫等の部に當てるのだ。又少し強い酒例へばブランデーの如きを口中に少し滴すも一方法である。又、アソモニアを嗅がせたり、或は手掌や足蹠を刷毛で擦する事も試みねばならぬ。次に卒倒者が嘔吐を催すことがあるもので、斯る場合には仰向にし、患者の頭を少し持ち上げて横の方へ向はしめねばならぬ。然うで無いと、其の吐いた物を再び嘔み下し、氣管の方へ入れる恐れがある故に吐いた物は口中へ水に浸した手拭を指頭に巻き付けて挿し入れ、十分に其の汚物を拭き取らねばならぬ。斯く

で氣が附いたら、又ブランデーか或は葡萄酒或は咖啡の類を飲ましめ、心配をするに及ばぬと安心させるやう慰さめることが肝要である。

卒中の原因は内科篇で詳しく説いたから茲には言はぬが、其の病状と處置法とを救急の場合として更に繰り返しておかう。抑、卒中を起すと患者の顔が多少赤くなり、脈数が大に減じ、瞳孔は光線に對して反應が無くなるものだが、病の輕重に依り間も無く自然に醒めることもあるし、又幾日も其の状態を續けてゐるものもある。又何うしても醒めずに其のまゝ死ぬものもある。斯の如き重症であると縱ひ醒めても身體の何くかに麻痺を残すものである。兎に角卒中に罹つた患者を見たら直ちに衣服を弛め、靜かに臥かせ而して前述の卒倒とは反對に患者の頭を少しく高くし、尙其の上に卒中は頭部を冷さねばならぬ。之には氷嚢を用ふるのだ。卒中が醒めても可成刺戟せぬ消化の宜い食物を取り、衣服を緩やかにして靜かに臥かせておくが肝要だ。此の他の處置法は内科篇で説いたから茲には書かぬ。

高熱

高熱

救急療法

急性の傳染病例へは猩紅熱腸室扶斯回歸病肺炎及び麻刺利亞等凡て高熱の病
即ち四十度乃至四十二度にも達する病であると脈が小さくなり或は之が爲に
氣絶するやうなことがあつて危険なものであるが斯る場合の救急處置として
は先づ第一に頭部又は胸部及び下腹部に冷罌法を施さねばならぬ。其の他冷
水で身體を拭き或は冷水で全身浴を行ひ同時に頭から冷水を注ぐ法などもあ
るが之は醫士のする救急法であつて素人の救急法は唯頭と胸とに冷罌法をす
る位で可い。

咯血

咯血

咯血とは肺から血が出ることで其の出て來る時に多少の咳嗽が出て其の色は
紅色をなし患者は大に氣を落すものである。其の處置法としては身體の上方
を高くして冷室に静臥せしめ軽い夜具を掛け衣服を緩やかにし談話を禁じ出
來能ふだけ心身を安靜に計らねばならぬ。元來咯血は素人が恐れる程に危険
なもので無くて其の咯血のために死ぬのは僅かに一%に過ぎぬものだ。され
ば患者に對しては氣を落さぬやう慰めることも肝要である。「乃公が附いてる

吐血

吐血

から大丈夫だ。ハア〜〜」といふ態度で看護して貰ひたい。乃で其の救
急處置としては三〇程の食鹽を水に溶かして飲ませ尙出血する場所が了つて
ぬたら水を當てるのである。

吐血とは胃や食道から起る出血で殊に胃癌や胃潰瘍の病に多く而して嘔吐に
依て來り其の色は黒を帯びてゐる。斯る場合の處置法は安靜に臥さしめ氷嚢
を胃部に貼て又氷水を飲ませるのだ。又吐血を咯血と思ひ或は反對に咯血を
吐血と誤り其の他鼻からの血液が咽頭を経て口中に出た物までを吐血や咯血
と思ひ大に驚くものであるが何れにしても血を吐くは比較的恐るゝに足らぬ
ものなることを患者に告げねばならぬ。日本人の血は平均一貫目餘もあつて
其の三分の一以上を失はねば血の爲に死ぬといふことの無いものである。何
事も心配は毒だが殊に吐血や咯血を無暗に恐れてはならぬ。

尙述べ可き事が多けれど次章なる外科大要も殆ど救急的の事柄を載せてある
のみならず諸科中にも夫等の事は澤山書いてあるから参照して頂きたい。元

來本書は家庭用の物で、其の療法も主に素人が出来る範圍に止めてある位なれば、其の藥物を醫家に相談せずして服するが如きは救急の場合等の外は餘り宜しく無いことゝ信ずるのである。

救急療法終

外科學大要

外科は内科其他の療法等に至つても智識が深く無いたる手術を要するに於て、故に本章に於ては極めて其の大要を説くに止めておく。

創傷

頭部の創傷

頭部の創傷——頭部に眞直に刃物が觸れて切傷が出来、或は一部の肉が除れて了ふことがあると、大抵は頭蓋骨を被うてる帽狀腱膜と上にある皮膚が剝がれるは言ふまでも無い。乃で頭の皮膚丈の切れたときは其の創口が開かぬけれど、若し帽狀腱膜も共に切れて創が骨膜にまで達したときは創口が開き、多くの血液が滾々と流れるものだ。斯る場合に醫士ならば其の血管を結紮へるとか、或は組織と共に縫ふとかするのだけれど、素人には逆も出来ぬこと、されば其の處置は後に言ふ。次に石が當つたとか、或は高い所から落ちて打たとかの爲に頭の皮膚の中なる血管が破れて血腫が出来。其の血腫が一部分であると、其の部が膨れて所謂瘤が出来、この瘤の輕いのは其の部分に綿を當て綑帶をして

おけば済むのだけれど、帽狀腱膜まで破れ、血腫が廣くて疼痛の劇しい時には矢張前同様に綿を當て、繃帯する上に冷巻法即ち氷嚢を載せてドン／＼冷した方が宜い。而して此の血腫の出来ると同時に疵が附いて居ると、其の疵から毒の侵入することがあるから注意せねばならぬ。又疵の爲に瓣が出来、其の瓣が剥がれてぶら下ることがある。斯る場合には其の剥がれた場所に復して處置せねばならぬ。然うで無いと後に皮膚が收縮して居らぬやうになる。何の疵でも毛髮の生える所は比較的膿を有たずに癒るものではあるが、併し其の創傷の縁が甚しく挫砕かれてゐると化膿するものだ。されば醫士は創傷の縁の肉が生きてゐるか否かを見定めて縫ふのである。若し縁の部に少し血液が出てゐる場合には癒合するもので、而も頭は血管に富んでゐるから治ることが速なものだ。都て創が清潔であれば治り易いが、若し不潔であると化膿し易く、時には恐る可き丹毒や蜂窩織炎などを起すことがある。例へば創傷に泥や砂或は多くの髪の毛が挟つてゐるやうな時には自然と毒が入り込んでゐるものと看做して處置せねばならぬ。偕右の如き創傷の出来たる場合には醫士も素人も其の

創傷を洗はねばならぬかの如くに考へて居る者が多いけれど、之も其の場合で有つて大抵は洗はぬ方が宜い。若し其の中に塵埃でも入り込んでゐるときは小さな物は拭き取り、大きな物はピンセットで除くが宜い。然るに何の考も無く石炭酸水などでザブ／＼洗ふと創傷の表に附いてゐる不潔物の一部分は除かれるとしても、其の一部分は組織の中へ押し込まれるやうなことがある。次に創面から出る血液を止めるやうにすることも勿論必要だ、且つ瓣創の瓣がぶら下つて居る時は早く縫つて固定し、創液を吸はせる爲には乾いた繃帯で無く即ち濕つた繃帯を用ふる方が宜い。次に創傷とて其の軟部の一部分が剥ぎ取られ、時に依ると髪が生えてゐる部分が悉く除かれて了ふやうなことがある。斯るときには其の跡に大きな肉芽面が出来、から植皮術を施さねばならぬ。植皮術は勿論素人出来るものではないが、醫學智識を廣める爲に其の一斑を言へば、植皮刀といふ刀或は西洋剃刀の如き物で皮膚を薄く剥ぎ、之を〇六%の生温い食鹽水に浸し、之を創傷の面を能く乾かしておいて、其の部に附け、其の上を乾燥ガーゼを貼て植ゑた皮膚が動かぬやう繃帯しておくのである。乃で頭部の創傷は多

く上膊部から皮膚を採つて植ゑるのである。尙創傷の重いのは骨にまで疵の出来ることがあるのみならず骨の一部分が全く除れて了ふことがある。尙又進んでは脳髓にも疵が出来ることもある。従つて大切なる血管例へば中硬膜動脈の如きが破裂することもある。之を放棄つておかざるまでも其の處置が遅ければ哀れ黄泉の客となるは言ふまでも無い。されば救急の療法は何人も心得ておかねばならぬことだ。

耳の創傷

耳の創傷——耳殻は元來大切な物では無くて、之が全然除かれて了つても聴覺に左程の不都合は無いものだが併し茲に創傷を受け、其の創傷の癒ゑる時に外聴道が収縮して狭くなれば勿論聴が悪くなる故に之を傷めた際には適當なる療法を加へねばならぬ。乃で耳殻の全部で無く即ち一部分に創傷を受けた場合には白い軟骨が現はれる、之を醫士ならば其の白い軟骨を切り取り、皮膚を縫ひ合はせ若し又耳殻の大部分が除かれたり或は漸く繋つて除れなくなつてるときには大切に注意して之を附けるやうにする。目出度く其の全部が附き或は一部分でもつくことがある。兎に角耳殻より血が出た場合には直ちに指

で壓へ或はガーゼを貼て、壓迫して居れば止まるものであるが、若し止らぬとも醫士の來るまでは壓へておかねばならぬ。斯くて醫士が來れば其の血管を結紮し若し其の場所が狭ければ組織と共に血管を縫ひ合はせるものである。次に耳殻の皮膚が切れずに皮下で出血し、後に其の部分が見苦しい恰好になることもある。されば外部に出血せざるまでも醫療を乞はねばならぬ。次に又耳殻に創傷を受けたと同時に外聴道にも創傷が出来、爲に治つた後に外聴道即ち耳道の狭くなることがある。されば之を豫防する方法として外聴道にヨードフォームガーゼを挿んでおくが宜い。次に耳の中を耳かきや針又は釘の如き物で傷つけ、鼓膜に疵が出来、或は破れることもある。破れる原因は斯の如き針や針の様な物で突くばかりで無く、平手で打られたり、大砲の響の如く空氣の壓が急に高まる場合或は撃劍の竹刀で打たれ或は耳中へ指を入れて急にポンと抜きささる時などにも破れることがある。斯くて破れると多少出血するを免れぬのみならず非常に痛むもので、大抵の人はスポイトなどを用ひ耳を洗ふものではあるが、それは餘り宜しく無い。それよりも脱脂綿を少しピンセットで撮み

顔面の創傷

入れて注意を拂ひつゝ拭く位に止めておかねばならぬ。又最も危険で無い處置はヨードフォームガーゼを入れ、それに血が附いて居れば更に又新しいのを取り換へるのだが、素人は耳内の損傷に不手際な處置をするよりも寧ろ其の儘に放棄つておき、早く醫士の診療を受けた方が得策である。

顔面の創傷——顛んだ時や、何かに衝突した時或は何か觸れた場合には主に骨の高い場所例へば額骨や上眼瞼などに創傷の出来るものだ。が併し一般に顔の創傷は癒り易いもので、比較的心配するに足らぬけれど、下手な療法は瘻痕が附いて醜くなるから、熟練なる外科醫に治療を乞はねばならぬ。下手な醫士が縫ふと其の創傷の縁の差を整然と合はせぬ爲に癒れた後でも醜なるものである。されば熟練なる醫士は創傷の不潔になつて居る所は清潔にし、縁の不整なる所は平かにし、出血があれば出血を止め、然る後上手に縫ふものである。次に鋭利な刃物で切れたのは非常に出血するものであるから、早く其の出血部を結紮せねばならぬ。又顔面の神経が切れると麻痺が起るから、可成早く縫合する必要がある。又神経が傷ついた骨に癒着すると後に神経痛の起るものであるか

舌の創傷

ら醫士たる者は注意せねばならぬ。鼻を剥ぎ除られ、或は口唇を切り除られた場合には、一刻も早く之を附けて癒着するやうに處置せねばならぬ。斯る事は固より醫士の爲す可き事ではあるが、其の一斑を記せば、其の落ちた部分を生理的食鹽水で洗ひ、創面の血を止めて其の上に附けるのである。綳帯を餘り緊しくすると、其の下に創液や血液が溜つて癒合を妨げるものだ。故に血液が出たらガーゼで拭き取り、創液の凝固物が出来たら其の儘にしておき、若し痂皮の如き物が出来たら、一週間目位にエーテルを塗けて之を除くか、或は硼酸軟膏でも塗けておくが宜い。次に火薬の爆發などで顔に大きな創傷が出来た時には、見ても慄とする形になるものだが、斯る場合にはヨードフォームガーゼを當て、綳帯をなしおき、一方急使を醫家に走らせ、おき、醫士は壞疽部を切り取つて縫ひ、其の缺損部には成形術を行ふものである。

舌の創傷——小さな浅い舌の創傷は自然に癒つて了ふが、大きな創傷は出血が甚しいのみならず、甚しく腫れることがある。此の出血を止めるには開口器を用ひ、舌を舌鉗子といふ機械で挟み出し、之を縫ふのである。若し又深部に出血

したる時には海綿かガーゼを指で挟んで血の出る部分を壓へるのだが、それでも尙止まぬ時は醫士が舌動脈の結紮を行ふものである。若し又舌が腫れ爲に窒息する憂のある時は舌の中央を縦に切開したり、氣管切開術を行ふものである。

右の外眼や頸乃至は胸腹などの切創打撲一々述べて居ては殆ど専門的になるのみならず、其の施術法等は逆も素人が行ふことの出来ぬ事柄が多ければ、今一般に通じての處置法を云ふと大抵の出血部にはガーゼ或は消毒綿を當て、壓迫し且つ冷罨法を施し、血管の収縮を促すといふ一事は甚だ大切である。斯くしておいて一方には一刻も早く醫療を受けるやうにしたいものだ。小生の知つてゐる家で、十歳の男兒が鋭利なる刀で切腹の眞似が本物となり内臓までが露出しかけたけれど幸にも家人は其の處置法を幾分心得居り、爲にガーゼを當てて之を壓迫しおき時を移さず醫士を招いて治療を乞ひ、大切なる玉の緒を繋ぎ止めたることがある。嗚呼救急療法は何人と雖も能く心得て居らねばならぬことである。

關節脱臼

關節脱臼

〔原因〕關節を撞き或は引張られ、これが爲に脱臼するのである。例へば手を伸す際に倒れ、地上に強く衝突して肩胛關節を脱臼するが如し。

〔病狀〕局部の皮下に血液洩れ、腫れて痛み、運動は勿論不完全になるものである。〔療法〕脱臼後は速かに左記の方法に依り骨頭を整復し、整復したる後は安靜となし、冷罨法を行ひ炎症の退いたる後は醫士は毎日軽く關節を運轉し、後には患者をして自ら之を行はしめねばならぬ、然うで無いと治つても動かぬやうになる。又脱臼後直ちに整復せぬと仲々容易に整復出来ぬのみならず、整復しても全治するまでの間が長くなつたり、或は運動が不充分になるなどの不幸に陥るものである。

脱臼整復術——左に其の主なるものを擧げてはおくが、實地に就かぬと仲々合點し難いものだ、况んや余の拙い文章に於てをやである。

(一)下顎關節脱臼——拇指を下顎の臼齒に當て、他指を顎の下なる前方に交叉せしめ、拇指は下方に他指は上方に壓し、次で拇指は後方に壓迫するのである。但

し拇指を咬まれることがあるから豫め布片で拇指を被うておき、整復するや否や手際宜く拇指を口中より抜き取らねばならぬ。

(二) 肩胛關節脱臼——(1) 僅に肩胛を舉げ緩かに保ち、骨頭を上方より關節窩へ向けて壓迫す。(2) 手を以て肩胛を反對に牽引し、水平に舉げ、肩胛の牽引を急に緩めねばならぬ。(3) 手を以て肩胛を對引し、他手を以て尺澤を引き坐つてる患者の腋窩に膝を容れ、上膊を内前方に引く。(4) 患者を臥床に坐らしめ、健側の肩胛を室隅に向はしめ、其の足は患者を固定し、上膊を上方に伸し、次で下方に伸す。

(5) 助手をして肩胛を固定せしめ、患者の前に立ち、一手を以て脱臼せる上肢の肘關節を取り、他手を以て腕關節を取り、軀幹に壓迫せる肘關節に於て外方に廻し、上膊を少しく上げ、助手をして拇指で骨頭を壓迫し、上膊を内方に廻さしむるのである。

(三) 腕關節脱臼——前膊に於て反對に引き、脱臼せる方向に手を引き、次で腕骨に壓し、手腕を伸し、或は屈げるのである。

(四) 尺澤脱臼——軀幹を椅子に由て固定し、上膊に於て反對に引き、腕關節脱臼の

方向に引く。其の後方に脱臼せるものは膝、或は手拳を以て關節の屈側に壓迫し、其の側方脱臼には骨を關節に壓迫し、助手をして引かしま、次で屈げて銳角となし、一手は上膊を取り、他手は前膊を取り、伸ばし及び曲げねばならぬ。

(五) 橈骨脱臼——肩胛に於て反對に引き、稍屈曲せる前膊を伸し、拇指を以て橈骨頭を壓迫するのである。

(六) 股關節脱臼——臥床に居る患者の骨盤を固定しておき、一手を以て膝蓋を把り、他手を以て下脚を握り、而して大腿を上方に伸し、次に後方脱臼に於ては外方に廻し、前方脱臼に於ては内方に廻して回復せねばならぬ。

膝蓋脱臼——下腿を牽き伸し、關節窩に向つて壓迫するのである。右の外各部の脱臼は多けれど、先づ此位にしておく、兎に角此等の手術は醫士に非ずんば到底六かしきのみならず大抵の整復術は麻酔法を行はねば出来難いものである。

潰瘍

〔原因〕抑、潰瘍とは一組織の瘡面が癩痕を作らないで、ブラ〜と治らぬ者の總

稱である。之が原因を爲すものは悪液質と器械的刺戟等とである。

〔病狀〕(イ)單純潰瘍——は瘡縁が軟かで半透明の白色或は藍色の薄い膜から被はれ、良性の膿汁を洩し其の近傍は敢て變狀を呈せぬもの。(ロ)痲鈍性潰瘍——は蒼白く腫れて多量の稀い汁を洩し、瘡底の海綿狀になるもの。(ハ)過敏性潰瘍——瘡面が紅くなつて出血し易く、少量の稀い汁を洩し瘡縁甚だ過敏で其の近傍の腫れて紅くなり痛みを帯び發熱して神經までに障害を及ぼすもの。(ニ)腐敗性潰瘍——潰瘍が壞疽り其の近傍甚しく發炎し、黒みを帯びたる紅色になり、劇しく痛み多量の惡臭ある膿汁を漏すもの。其の他色々の種類あつて様々の状態を呈するけれど、専門書ならねば略す。

〔療法〕單純性には安靜となし膿汁などは奇麗に除き取り、防腐藥として石炭酸水を注ぎて洗ひ、沃度仿謨でも撒布し、繃帶しておけば宜いが、其他の者に在つては滋養の食物を與へて身體を強壯にし、局部は言ふに及ばず、身體一般を清潔にし、酒精劑を以て瘡面を洗ひ、赤降汞を撒布し、屢、硝酸銀杆を塗擦することがある。されど此等の手術は勿論素人療治の出来るもので無い。

尙終りに、臨み、素人の心得置く可き事柄を一纏めにして述べれば、或る部分の炎症、即ち紅くなつて熱を有ち腫れて痛むなどの症狀には、其の炎症部を高くし、水を貼つて血を吸はせたり、或は冷水巻法若くは氷巻法を當て、無刺戟性の食物を攝つて居らねばならぬ。又打撲俗に云ふ打身には、矢張氷巻法或は3%の鉛糖水巻法を施すなどは心得ておく可きであるが、早急の場合には醋の巻法を施しても幾分の効あるものである。次に、

〔化膿〕として發熱が多少緩ぎ、ズッキ／＼とした痛さがあり、腫れは幾らか軟かくなつて波動を呈するなどの病狀ある者は、消化し易い滋養の飲食物を攝り、新鮮なる氣中に住居し、其の化膿を速に促す爲には、微温湯或は濕温巴布を施すのであつて、切開して防腐法を施す等の處置は、勿論醫療を乞ふことが大必要である。

茲に又一つ注意す可きは、素人は出血の際色々の止血藥を塗けたがる一事である。例へば、袂塵、煙草の粉などを用ふるやうなものだ。去りながら此等の中には如何なる毒物を含んで居らぬとも限られぬ、實に危険なことである。又一歩進んだ者は、格魯兒化鐵液、列並底油、古加乙、涅明、蔡、鞣酸、サリシ、ル酸、クレオリン

及び亞鉛などを用ふるけれど、格魯兒化鐵液は痲皮を作つて其の痲皮は腐敗し爲に創面に害を蒙ることがあるし、的列並底は疼痛を發するなどの夫々一利害の有るものなれば素人は唯壓迫して冷罨法を施す位に止めておかねばならぬ。右の外言ふ可き事數多あれど、そは専門書を見られたい。

外科學大要終

看護法大要

之も職業として看護法は一大冊をなすに至るけれど、本書は固より家庭用であるのみならず、毎章には唯概括して其の中一斑を示すに止めておく。事柄が籠つてあるから、本章には唯概括して其の中一斑を示すに止めておく。

病室

病室

病人に依て其の病室の構造等を異にせねばならぬけれど、今其中で最も普通なる要件を擧れば第一に病室は廣くて明るくなければならぬ。(併し病症に依ては特に暗くする必要もあるが、そは各病の所で述べたのみならず、例外に屬することだ) 若し狭くて暗く如何にも陰氣な室で有つたら病氣ならざる者も病氣となるに至る况んや病人に於てをやだ。第二に病室は家人の居室と可成遠く隔て家人の談話や室内歩行などの噪がしい音響が聞えぬ程病人の爲に利益となるのである。病人の枕元で兒供がガヤ／＼騒いだり大人が彼是議論したりするに至つては病氣をして益重らせる種となる。去りながら病も既に恢復の時期に近づき敢て閑靜を要せぬ症に至つては、却て家人と談話し、或は小兒の

無邪氣なる遊戯を見せしめ、或は戸を開いて街上の有様などを眺めしめるも亦精神の安慰法となることがある。此等の處置に至つては臨機應變の看護智識が無くてはならぬ。或る病人に至つては枕元でガヤ／＼人が談話をしてゐる程スヤ／＼眠られ又眠らぬ時でも病苦を紛らし却て成績の宜いものもある。著者の如きも其の一人で、枕元に家人同志或は朋友などが數人四方山の話をしてゐるのを聞きながらウン／＼呻つてゐると大に病苦を軽減せられる心地がするのみならず時に依ては其れが爲に眠りに就かれることもある。併し斯くの如きは例外中の例外なれば之を以て他を推してはならぬ。

病室内は屢々換氣を怠つてはならぬ。昔風の人は感冒に罹るから暖くせねばならぬとて冬などは屏風を立て廻し、火鉢に火を多く入れておくものだが、之れでは炭酸瓦斯が室内に漂々と立ち籠り其の上病者の悪い呼氣や排泄物の臭氣などが溜り病者には言ふまでも無く大害を與ふるし、看護者にも一方ならぬ害となる。されば病者には換氣する時特に夜具を重襲せしめ、頭や顔などにも冷風を當てぬやうに物を以て被ひ、戸障子を開いて室内と室外との空氣を時々入れ

夜具

換へることが大必要である。

病室内には無用の器物を置いてはならぬ。病室内は賓客の來ぬ所だから平生不用な膳椀や夜具などを其の隅の方や枕元に取り散しておくといふやうな舊い思想を抱いてゐる人も中にはあるが、之では病者の心をして益々不快ならしめ且つ精神の刺戟を多くするものだ。されば病者の精神を慰む可き盆栽とか繪畫とかの外の何物も室内に置かず、廣々としておくが肝要である。

夜具

病者の夜具は輕くて軟かく而も暖くなくてはならぬ。寢床は羽毛或は藁或は綿を入れた物でも可いが、何れにしても厚くて廣さが宜い。薄いのならば幾枚でも重ねて敷かじめねばならぬ。寢床がフカ／＼と厚くて空氣を多く含んで居れば勿論暖であるから、縦ひ掛蒲團が少くても寒さを感じぬ。然るに薄い寢床であると勢ひ掛蒲團を多く重ねればならぬやうになる。掛蒲團が多いと重くて病者には甚だ苦しいものである。掛蒲團は時候にも依るけれど、概して毛布類及びフランネルで製し而も面積の廣いのが空氣を多く含んでゐて暖く而

も軽いものである。而して夜具は時々取り換へ汚物の附いてゐるのは之を洗濯し且つ目に見える汚物が附いてゐぬにしても之を日光消毒するなどの手数を厭ふてはならぬ。

暖室法

暖室法

夏は暖室の必要は殆ど無いが冬は健康者よりも勿論室内を暖かにせねばならぬ必要がある。之には西洋風のストーヴ或は支那風の温突的が宜いけれど之は我國の大部分の人に行ひ難く即ち言ふ可くして行はれぬ次第である。されば我國では病者の寢床中に湯たんぽを幾つでも入れて暖を取らしめるより外に仕方は無い。若し已むを得ざる場合に火鉢を置くならば其の火は眞赤にしておつてゐて黒い所の無いのを入れ其の上に鐵瓶なり土瓶なりを掛け湯氣を室内に籠らせておくが宜い。眞赤になつてゐる火は炭酸瓦斯を吐くことが少いし湯氣を籠らせておくと室内が暖いものである。特に呼吸器の病者には乾燥せぬ空氣を呼吸せしめることが肝要である。

藥物の注意

藥物の注意

内用外用共に藥物を與ふる時間を醫士の指圖通り守る可きは言ふまでも無い。而して此等の藥物を入れたる器物を病者の側に置いてはならぬ。即ち病者の知らぬ場所に置き用に臨んで其の用量だけを與へることにするが宜い。病者の側に置くと病者自身で用ひ其の分量を誤り爲に危険を招いたる例は往々有ることだ。次に、

甲醫の藥物を用ひてゐる最中に他から勸告を受けたる藥物を私に服用せしめることは未開人の往々爲すことではあるが之が爲に非常な禍害を招くことがある。例へば甲醫の與へたる藥物と他より與へたる藥物とが化學的作用を起して如何なる毒物となるかも知れぬし又甲醫の與へたる藥は賦形藥を以て其の外観が違つてゐても乙人の與へたる藥と同質であるかも知れぬ。同質であるとするれば其の分量が過度になつてこれ亦一方ならぬ害となるは見易い道理であらう。

醫士を信用す可き事

内科外科眼科等何れにもせよ病者及び家人の信用せる醫士に診療を乞ひ何事

醫士を信用す可き事

も我意を扶まず醫士の指圖に従ふ事が肝要である。醫士に診療を乞ふるにも拘らず前述の如く他人の勸告を受けて他の藥物を與へたり或は祈禱禁厭などに絶つたり或は頻々醫士を取り換へたりするは甚だ宜しく無いことだ。若し従前の醫士を不可なりと思ふ場合には他醫を招くも可いが可成は前醫の感情を害せぬやうにし前醫の意見及び爾來施したる處置法を後醫に告げしめるやうにしたい。又前醫を謝絶せずにおき後醫を招く場合には前醫をして之を招かしめるか或は前醫の尊敬する醫士を招くが宜い。著者の知つてゐる家で或る醫學士を招きて治療を乞ふたが抄々しく行かぬ所から他醫即ち普通の開業試験に合格したる而も頭の舊くなつてゐる先生を招き對診せしめた。甲乙の醫士が別室で色々患者の事に就き意見を述べ合つて見ると後醫は醫士の資格を得て以來數多の患者を取り扱つてゐるとは言ひながら醫學雜誌一冊手に取つたでも無く日進文明の空氣を更に吸はぬ先生唯應揚に大家然たる口吻が上手になつてゐる丈なれば前醫の常に研究的態度の新しい頭には迎も及ぶ可くも無い。前醫は心の中で後醫の未熟を嘲つてゐるけれども爾來己れが患者に對して

病室内の談話

の成績が抄々しく無きを如何せんやで甚だ残念ではあれど今此の後醫に従はざれば予は辭して後醫が治療することになり、あはれ病者は風前の燈火如かず予は此の頭奮先生に口だけで従はんにはと御無理御尤で、其の坐は濟し、其の後醫の處方だと稱して矢張己れの意見通りの藥を與へたといふ實例がある。此等の事も病者の家人たる者は心得ておかねばならぬ。

病室内の談話

病室内で看護者同志或は甲乙二人が病者の精神を刺戟するやうな事柄を話してはならぬ。例へば何處其處の結核者も遂々死んで了つたとか或は何某も病聲に苦しんでゐるとか或は病氣の話で無くても物價が騰貴して細民が苦しんでゐるなどの不快なる談話をしてはならぬ。又決して私語をしてはならぬ。私語くと病者は何の爲に己れに隠すのだらうかと其の精神を惱すこと一通りでも無い。されば必要に迫られて話さねばならぬことがあつたら公々然と通常の音聲で語るが宜い。又病者に聞かせて悪いことならば病者の前を退いて然る後言へばそれで済むことだ。看護者のみならず訪問者でも大に慎まねばなら

ぬことである。

消毒の事

傳染病者其の他に對しては醫士の指圖通り消毒すれば可いのであれど、何人も

消毒法の一斑を心得ておかねばならぬから今順次に之を述べるとしよう。

第一、火力——消毒はすべて炎々たる烈火の力を借るを以て最も安全なることとす故に傳染病の死體及び毒に汚れたる物は悉く焼き盡すに如くは無いものだ。

第二、汽熱及煮沸——如何に猛烈なる傳染病毒と雖も攝氏百度以上の熱氣に逢へば忽ち枯死するものである故に傳染病に用ひたる物品は熱氣消毒器中に入れて其の熱が内部に能く透るやうに適宜に之を排列せねばならぬ。衣服の類ならば三十分時間以上臥具の類に至つては一時間以上汎ねく其の熱氣を通さねばならぬ。眞の熱氣消毒器は其の構造が宏大で之を用ふることは望む可くして容易に得られざるものであるから兎に角攝氏百度以上の熱氣を以て消毒す可き物品を蒸すことが出来たならばそれで事足るとせねばならぬ。乃て其

の簡易の装置に依て同様の目的を達せらるゝ一法を言へば接合緊密なる蓋をしたる桶様の物を用ひ其の底面に穴を穿ちて蒸氣を導く處とし之を釜の上に置き蒸氣を通はしめ其の蓋に小さな穴を穿ち其の穴に寒暖計を入れ攝氏百度を表するに至らしむるのである此の仕掛は甚だ簡易で費用も左程要らぬから何んな地方でも何人にも之を設けることが出来、それで消毒の目的は大抵達せらるゝものだ。又熱湯中に煮沸するのも右の方法と其の道理は同じいことである、但し何れも三十分時以上を続けねば消毒の効を全うしたと安心することが出来ぬものである。

第三、藥劑——甲、石炭酸水二十倍結晶石炭酸九十五分は各種の傳染病毒を撲滅する効力あるけれど如何せん其の價が高いから何人も之を多く使用することが出来ぬ。であるから他の消毒藥（例へば石灰を用ふれば光澤を損し昇汞水を用ふれば危険の恐れある）で消毒をなし難い場合にのみ使用するが可い。精製石炭酸は高價であるから或る場合に依ては粗製石炭酸を以て代用するも可い。但し粗製の方は消毒後斑點を残すことがあるから大切な家屋や貴重物品に

は精製を以てするに如かずである。此の石炭酸水を以て消毒するには次の個條を心得おかねばならぬ。(一)衣服などを消毒するには十二時間以上これに浸し其の後清浄なる熱湯を以て更に洗ふが可い。(二)器具及び室内などを消毒するには本品を以て洗ひ或は撒布するのである其の器具を洗ひ又は撒布したる後は前と同じく清潔な熱湯で更に洗ふが可い。(三)手足などを消毒したる後も亦熱湯の冷めたので洗ふが善い。本品を製するには先づ結晶石炭酸十分に水大約一分を加へ能々振盪し然る後次第々に少し宛水を注ぎ全量二百分に至らしむるが可い。初めより一時に水を注ぐと能く溶解せぬものだ。又温湯を用ふれば其の溶解が早い但し衣服等に用ふる外は更に鹽酸若くは酒石酸四分を加ふれば能く溶解するのみならず其の効が著しいものである。

乙昇汞水千倍(昇汞水一分鹽酸五分)も廉價で其の上消毒の効は石炭酸水よりも著しいものである。されど猛烈な毒薬でそれで色も無く臭も無いものであるから實に危険を招き易いものと謂はねばならぬ。故に使用するには十分なる注意を加へて藍色となし一見水と區別の出来るやうにしておくが大必要であ

る。斯る毒薬であるから飲食器玩具及び飲料水に滲透す可き場所の消毒には露用ひてはならぬ。又金屬或は糞便に逢ふときは分解又は凝結して消毒の効力を失ふものであるから金屬製の物品或は吐瀉物には効力無しと心得ねばならぬ。本品を以て身體を消毒し又は消毒後直ちに使用せねばならぬやうな物品は必ず温湯を以て數回洗はねばならぬ。

丙生石灰石灰乳(十倍)石灰一分は虎列刺腸室扶斯などの病毒を消毒するの効力あるものであるから吐瀉物下水及び芥溜などの消毒には凡て之を用ふるが可い。生石灰は石灰石を焼いて製した塊りであるから少量の水を注げば熱を發し崩壊するものである。然らざるものは消毒の効が無いと言つても可い。蟻灰又は通常の石灰は消毒の効が無い。又石灰乳を製するには一分の生石灰を取り九分の水を加へて能く混せるのである。而して可成用に臨んで之を製し使用の際は毎回能く攪拌るが肝要である。
丁格魯兒石灰水二十倍格魯兒石灰五分は便所下水芥溜床下及び土間などの消毒に用ふ。本品も用に臨んで製するが可い。

戊硫酸又は粗製硫酸同量の水に溶は石灰乳或は石炭酸水などの代用品として糞池地下水などの消毒に用ふることが出来る。但し本品は強い腐蝕性を有つてゐるから之を取り扱ふ際には手足にかけぬ様注意せねばならぬ。本品を以て糞池を消毒するには糞便と同量の本品を注いで攪拌せねばならぬ。但し糞池に入るゝと糞便沸騰して溢るゝの恐れがあるから糞便の多量なる場合に施してはならぬ。又本品は漆蝕敵金屬製品を損することがある。十分注意せねばならぬ。本品を製するには五十分の水を取り一時に薬品を注がないで、絶えず其の水を攪拌せつゝ注意して徐々に硫酸又は粗製硫酸五十分を少し宛注いで製するが可い。決して硫酸中に水を注いでならぬ。

第一、傳染病者の全快したるときは先づ石炭酸水或は昇汞水を以て其の人の全身を拭ひたる後更に入浴せしむるが必要である。

第二、傳染病者の死體は其の被服に消毒薬を撒き然る後棺の中に斂めねばならぬ。但し成るだけ火葬が宜い。

第三、看護人其の他病者に汚れたる病者の家人或は消毒法施行に従事したる吏

員人夫などは手足を石炭酸水或は昇汞水で消毒せねばならぬ。ことば言ふまでも無く、其の看護人及び吏員人夫などは前以て爪を剪り、其の間に垢の溜らぬやうに意を用ひねばならぬ。

第四、病者或は死體の運搬器即ち駕籠釣臺戸板などは使用の都度周ねく昇汞水又は石炭酸水を注がねばならぬ。

第五、虎列刺病者の吐瀉物腸窒扶斯赤痢患者の瀉下物の這入つた便所の糞池肥料溜等には、少くも糞便の量十分一の石灰乳又は格魯兒石灰水を注いで能く攪拌せ、其周囲の地面にも汎く撒布することは大必要である。但し此の消毒を施した糞池肥料溜などの糞便に更に新患者の吐瀉物を混入せざる限りは一週間の後普通の糞便同様に肥料に供へても妨げなく又健康人が其の便所に通ふても差支は無い。虎列刺病者などの吐瀉せる土間には其の部分に充分石灰乳又は魯格兒石灰水などを灌ぎ、吐瀉物と共に表面の土を掘り取つて之を人家を隔つること遠い所に地に埋むるか或は焼いても其の跡に尙右の消毒薬を撒布しておかねばならぬ。虎列刺病者などの吐瀉物は縦ひ消毒し

てあつても、之を投げ棄てたる芥溜には其の部分にも充分石灰乳又は格魯兒石灰水を撒き然る後塵埃を悉く取り除いて焼き盡し其の跡に尙右の消毒薬を撒いておくことは前と同じである。虎列刺病者などの吐瀉物を混じたる下水溝には多量の生石灰石灰乳又は格魯兒石灰水を注いで能く攪拌せたる後又多量の水を注いで流さねばならぬ。

第六、傳染病者の着てゐた衣服及び臥具蚊帳、飲食器薬用品其の他病者の室内にあつた諸器具の類或は看病人及び家人或は消毒法に従事したる吏員人夫などの衣服及び手巾足袋靴草履等或は病者の室内に用ひた疊蓆敷物などは富有家の所有ならば断然焼き盡すが善い。若しこれを焼いて困る人のならば己むを得ず氣熱煮沸石炭酸水浸漬昇汞水浸漬かを實行せねばならぬ。但し疊蓆及び段通の類は石炭酸水を撒き然る後に二週間以上も日光と大氣とに曝して乾燥せしめねばならぬ。但し汚れの甚しいものは可成焼き盡すが可い。

第七、傳染病者の居間其の他消毒を必要と認めたる室は先づ室内の疊敷物など

を取り除き室内各部を始めとし床及び床下を掃除して其の塵芥を焼き其の上昇汞水或は石炭酸水を多量に撒き然る後日光の射入空氣の流通を良くし室内の全く乾燥するを待つて家人の起臥を許すが善い。若し雨天日を亘る時は火氣を以て乾燥せしめねばならぬ。

第八、虎列刺患者などのあつた汽車の車室は先づ吐瀉物をして汎く散漫せしめぬやうに石灰石炭の焚屑灰鋸屑などを撒き之を取り除いて焼き而して車内の消毒は前項患者居室の消毒法に準ずるが良い。但し車室に附屬する便所は石灰乳又は石炭酸水を以て消毒せねばならぬ。之は衆多の人が乗るものなれば尙更十分の消毒が必要である。

第九、傳染病者のあつた船舶は其の消毒法を行ふに先だちて人家及び他の船舶に遠く隔つた處へ漕ぎ行き然る後左の消毒法を行はねばならぬ。

一、患者のあつた船室は先づ室内の臥具戸張敷物などを取り除き前に述べたる方法に準じて消毒し室内各部を掃除し次に昇汞水又は石炭酸水を汎ねく室内に撒布し其の上温湯を以て叮嚀に洗ひ淨め日光の射入空氣

の流通を良くし室内の全く乾くまで船客を入れてはならぬ。但し時宜に依つては火氣を以て乾燥せしめねばならぬこともある。

二、患者のあつた室外と雖も病毒の疑ひある場所及び不潔の處は石炭酸水或は昇汞水を以て洗ひ淨めねばならぬ。

三、患者の入りたる便所は石灰乳又は石炭酸水を撒き、然る後熱湯を以て十分に洗はねばならぬ。

四、吐瀉物滲透の恐れあるときは消毒薬を注ぎ船底に溜つてゐる汚い水を取り除き、然る後熱湯を以て洗はねばならぬ。

五、船中の飲用水は新鮮の良水と交換し其の際十分に其の器を洗ひ淨めねばならぬ。

黒死病流行の徴あるときは第一に鼠に注意し、これを驅除する方法を講せねばならぬ。此の小獣より大なる禍害を大切なる人に及ぼすものである。全體鼠といふものは本病毒に感染し易いから、これより其の毒を人に移し易いのである。注意せねばならぬ。

食物の事

一般の人の中には醫士でさへも病人の食物は流動體で、禁物は脂肪類・固形物例を舉げて言へば牛乳・卵・黄、若くは粥などに限られてゐるかの如く千篇一律に心得てゐる者があるけれど決して然ういふ譯の物では無い。却て脂肪類を勧めねばならぬものもあるし、或は牛乳・雞卵の宜しく無いものもある。其の他多食を勧め、減食を命じ絶食を斷行せしめるなど病症に依て之を取捨撰擇せねばならぬ。勿論之は主任醫が注意するには相違無いけれど、尙前々述べたる各病の章にも其の大要を述べてあるから之を守らねばならぬ。尙詳しく知りたいと思ふ人は拙著「食餌療法」を讀まれたい。

病人を小兒と思ふ事

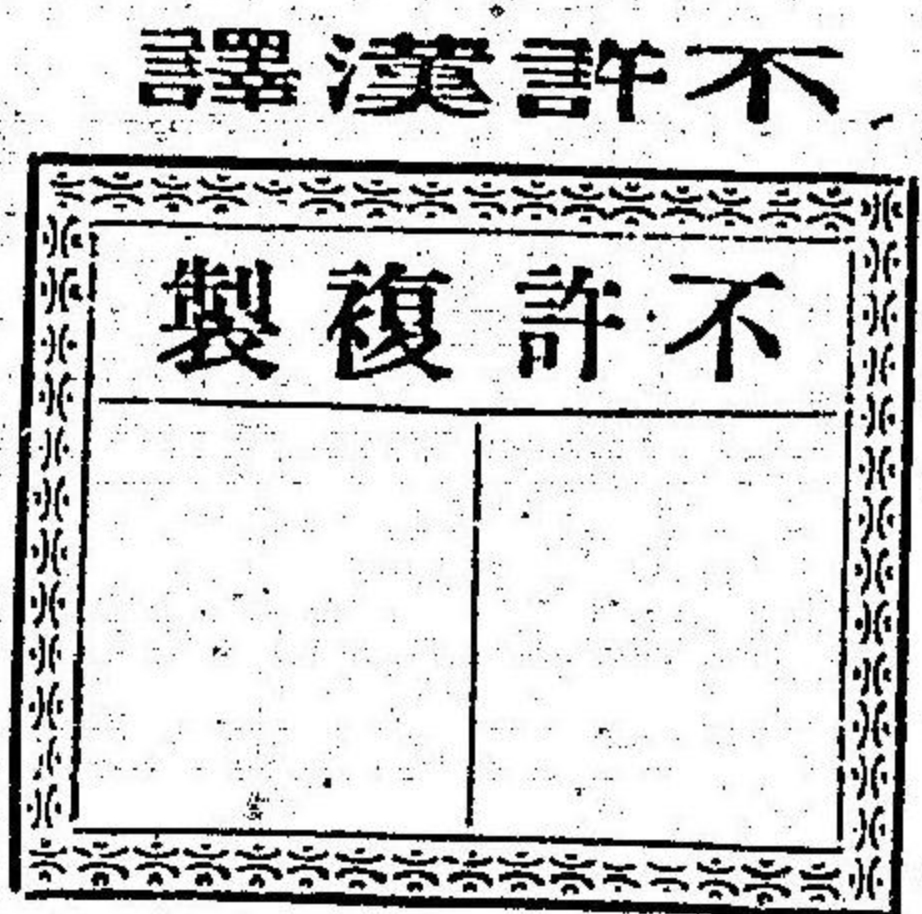
終りに臨み、一言す可きは病人を大人でも智識ある學者でも都て一樣に小兒だと思ひ、無理な事や我儘な事を言つても腹立てず優しく待遇して之に反抗してはならぬ。若し夫れ有害な物を呉れと言つたり、醫士の禁じてある事を破らうとしたりする場合などには巧みに其の不可なる理由を述べて而も病者の心を

刺戟せぬやうに取り計らはねばならぬ。要するに誠の一心が籠つて居ればそれで可いのである。嗚呼何事にも誠は尊いものだ。誠なる哉誠。
看護法大要 終

家庭醫學 大尾

明治四十四年七月十二日印刷
明治四十四年七月十六日發行

(家庭醫學奥付)
正價金 參圓



著者	糸左近
發行者	金刺源次
印刷者	樁市太郎
大販賣所	武田芳進堂
同	武藏屋書店
同	東京堂書店

發行所

東京市神田區今川小路一丁目五番地(電話本局七六六番)

金刺芳流堂
振替貯金口座東京(八四二四)

系左近先生の著書

系左近先生の四大著書

醫者ならぬ人でも他人及び自己の病氣を何病であるとの診断が出来たら如何に重寶であるかは言ふまでもありますまい、そこで又診断が出来ても何んな薬を用ひて宜いか之が了らねばこれ亦歯痒い事である、所が此二大事を總振假名で誰にでも了る様、丁寧に説き示して有るのが左の四大良書である

素人診断學

全一冊 總クローヌ美本 正價 六拾錢 小包料 六錢

總論、望診法、聞診法、檢温法、檢尿法、打診法、聽診法、復部診法、小兒診断法、骨相法、疾病顧問、

卷頭には美麗なる着色診断圖式あり、巻頭には専門家の参考となる有用の事項あり

素人藥物學

全一冊 總クローヌ美本 正價 六拾錢 郵稅 六錢

總論 藥の配合、連服の事、藥と年、齡、天秤分量調理法と藥物

各論 總胃劑十四品、皮膚病藥七品、強壯劑七品、解熱劑六品、防腐劑九品、收斂劑十六品、下劑九品、雜劑三十一品、非藥劑の藥九品

(本書字引) 藥物學専門の語を丁寧に解説す

地方大賣所

大阪市備後町四丁目
同 市南本町四丁目
名古屋市本町三丁目
京都市寺町通り二條下ル
廣 嶋 市 鹽 屋 町
熊本市新二丁目
久留米市米屋町
鹿兒嶋市松山通仲町
同 市 仲 町
仙臺市大町五丁目
同 市 大 町 五 丁 目
金 深 市 片 町
新 潟 市 古 町 通 六 番 丁
同 市 古 町 通 六 番 丁
松本市本町三丁目
福嶋縣郡山町
盛岡市吳服町
札幌區南一條西三丁目

吉三川 岡宅瀨 林善 積善 長崎 善次 久田 永金 吉田 幸兵衛 活木 堂英 鈴木 英堂 宇宮 英堂 北松 光堂 萬松 堂光 松岳 堂光 磐木 堂光 富貴 堂光

吉助店 岡宅瀨代書 林善代書 積善代書 長崎善次書 久田永金書 吉田幸兵衛書 活木堂英書 鈴木英堂書 宇宮英堂書 北松光堂書 萬松堂光書 松岳堂光書 磐木堂光書

續素人藥物學

全壹冊

總クローヌ美本
正價 六十錢
郵税 六錢

利尿及心臟強壯藥十六品、麻酔鎮痙劑八品、(肺結核の七療法)
生殖器劑十二品、寄生物驅除劑十一品、變質劑五品、雜劑十九品、(飲酒法)
附錄 毛生藥の調合法、白髮染の藥、毛を抜く藥、化粧藥の色々、日に焼けぬ藥、齒磨粉、消毒藥、眼科藥、吸入藥、灌腸藥、人工温泉、香袋、屠蘇酒製法、乳汁分泌藥、

續々素人藥物學 全

最新刊

全一冊
總クローヌ美本
正價 六拾錢
郵税 六錢

正篇續篇の二冊を以て大抵の必要なる藥物を説いてあるけれど新藥は日進月歩の醫學と共に益々殖えて來るし、且つ今や人の措いて顧みぬ和漢藥中にも侮られぬ妙藥の有る爲め、著者は夫等を補はんとして、且つ藥物の取扱方を説かんとて著はされたる苦心の作である

目次大要——新藥之部 和漢藥之部

藥物使用法の部 (皮下注射法、滲腸法、蒸氣吸入法、含嗽法、尿道注射法、子宮洗滌法、膏藥貼用法、煎劑、粉劑、丸劑、錠劑、膏布劑等の製法)

其他正篇に漏れたる藥物に關する専門語の意義等を詳細に説明して遺憾無らしむ

生理と病理

皮膚之卷

全一冊

菊判總クローヌ美本
紙數 三百拾頁
正價 九拾錢
小包料 八錢

醫藥用又家庭用として著はされたのだ、内容は皮膚の生理病理は云ふまでも無く解剖衛生までも述べ、**皮膚美麗法、化粧法、白色法、毛髮に關する、一切の事、ニキビ、ソバカス、アザ、癩病**

(數拾頁に亘り論じてある)等の療**花柳病**の治療法を素人にも分る様説いてある優美なる言文一法に最新詳密を極め、附録には假名を附けてある

生理と病理

五官之卷

最新刊

全一冊 菊判
總クローヌ美本
紙數 三百六十頁
正價 壹圓
小包料 十二錢

五官即眼、耳、鼻、舌、觸覺、未器の解剖、生理、衛生病理總論及病理各論を説きたる物で殊に近視眼の豫防法矯正法眼鏡の事トラホーム(十五通の療法ある)夜盲斜視さかまつけ等の眼病、耳の洗滌法耳たれ鼓膜炎鼻の清潔法鼻茸肥厚性鼻炎鼻整形術舌の諸病等は最新詳密でも醫家素人も讀めば多大の益がある。

第一卷即皮膚の卷は既刊、第二卷は即ち本卷第三卷より七卷までは順次續刊

系左近先生の著作書

生理と病理 筋骨の巻

筋骨の解剖生理より説き初めて其の衛生及病理を述べ、就中骨折打撲脱臼の處置運動法肥の法、瘦る法、身長を伸す法、柔道亂取、形等は其真髓を穿つてある。
第一巻即皮膚の巻は既刊、第二巻即五官の巻は既刊、第三巻は即、本巻、第四巻より七巻までは順次續刊。

最新刊
全一冊 菊
紙數 參百廿五頁
正價 金壹圓
小包料 金八錢

新素人藥物學

最新刊
全一冊 三六
紙數 參百五十五頁
正價 價七拾五錢
小包料 八錢

本書最近の新藥を系統的に集めて其の性状効能用法用量等を誰にでも分り易く總振假名付で説明したもの。今其の目錄の概要を示せば
神經系統病劑、麻酔劑、皮膚病劑、防腐殺菌劑、花柳病劑、解熱劑、呼吸器病劑、收斂劑、止血劑、健胃強壯劑、利尿劑、下劑、鎮痛劑、雜劑等
で彼六百六號の注射藥などは其の名の起つた所以から説き始め、使用法及器械の用とする藥物も澤山有る又、不老不死とも云ふ、煩悶鬱憂を除く藥等は今迄の藥物書に無

家庭衛生講話

全一冊 菊
正價 七十五錢
小包料 八錢

本書は醫者として又文學者として有名なる系先生の名著である。故に其説最も最新確實で。しかも流麗なる言文一致總振假名である。中には衣服飲食住居運動法腦の用法、病氣治療法、生殖器簿等詳しく説いてある。殊に飲食治療の篇は殊に懇篤適切である。醫師醫學生の參考素人の顧問として一家に一本は必ず無くてはならぬ。

家庭衛生講話續編

全一冊 菊
正價 八拾五錢
小包料 八錢

正編の珍本なることより推して續編の尙更有益なるは敢て贅言するの必要有りますまい。されば其目錄大綱を掲げるに止めます。

婦人科産科 月經子宮卵巣妊娠出産に關する諸症特に無
多毛の眼病 特にトホム夜盲近視等
密法新外科 種々の疾病特に外傷等あり
皮膚科 母斑雀斑面赤鼻其他
小兒科 小兒に關
耳鼻咽喉科 耳聾眼腫等
内科 各種の皮膚病特に無
皮膚科 各種の皮膚病特に無
小兒科 小兒に關

系左近先生の著作書

男女學問病

本書は著者先生が醫學問病者等の爲に腦病、胃病、神經病等の原因、病狀、攝生法及最新なる治療法を博
文館中學世界誌上に數月に亘つて説かれたる者である。されど男子のみを目的とせざるものである。か
ら先生は更に女學生方に、大必要なる疾病を加へ、又特に青年者の爲に或る病をも増補せられ、之を一
冊の書物として今般弊店より出版することゝなつたのである。學問に従事せらるる方は勿論何人も本書
の讀まれたるは健康上一大利益あることを誓ふのである。其說新精確、其文流麗快活なるは既に諸君
の知らるゝ所であらう。

作文の教へ

開版の理由 昔から作文に關したる書物程、澤山あるものはあるまい。されど或は文を作る規則
に止り、或は名人大家の作例を擧るを事とし、或は熟語を集るを専とするなど、一つも上手に作れる方
法を説いたものが無い。遇名文評釋など有つても、唯賞賛の詞を載せたのみで、其の理由を示したも
のが無い。故に文を學ぶ者は徒らに數十年を費して、以心傳心的に解するものである。著者こゝに考ふ
る所あつて、此の本を作られたのである。
本書の特色 一、上手に文を作る方法を、理論的に説いてある。二、其の例に擧げた名家の作
でも一々其の意の理由を詳かに示してある。三、例文は實用文裝飾文詩歌發句俳句小説何んでも述
べてある。四、龍頭には、新しい熟語を載せてある。五、文體は古文近世文言文一致體、何れ
にも通せらるゝことである。
何自現代の文壇に於ける一名家の著作なれば、學者一たび讀まば、數ヶ月を費やさずして、自由自在
前に名文を書かせることである。今又此の名作、學者之より名文の作れぬことを憂へ玉ふなよ。

全一冊 菊判 美本
正價 五十五錢
郵税 八錢

全一冊 菊判 美本
正價 二十錢
郵税 六錢

改訂 生理學講義

普通生理學は學生が一度も見ただことのない骨から大抵説き初めてある先生之では教育の旨に違ふとい
ふ考へから上篇には人の直に目に觸るる五臓器皮膚の解剖の生理衛生から説き其れより段々と深部に
及ばし生殖器を以て普通生理の人體を了り更に下篇に進んで高等の生理を講じ尙ほ附録には日用適接
の事柄を述べられ其の書方は言文一致で誰にもよく分る生理講義書である。

全一冊 菊判 總クロース
金文字入 美本
正價 八十錢
小包料 八錢

生理衛生要解

本書は著者先生が學生諸子の便を計り、諸子が學校にて教授を受けたる生理衛
生教科書の不足を補ひ及び諸官立學校へ入學せんとする時の記憶を強固なら
しめんが爲に著されたる苦心の作なり。今其の特色を列記すれば

全一冊 四六判 美本
正價 參拾錢
郵税 六錢

(一) 一章毎に數多の表を附し此表さえ見れば一見了解し得らるゝ事。(二) 最新精確なる挿圖八十餘
種ある事は此の種類の著書に絶えて無き事。(三) 龍頭に數多の問を設けてある事。(四) 肝要なる所
には圈點批點を附し、大注意を與へてある事。(五) 行文の流麗簡明なる事。(六) 第一流の大家が著は
されたる書なるにも拘はらず定價の廉にして頁の多き事等。

謹んで申し上げます、今度弊店が発行所たるの榮を得たる

八

文部省検定済

中等生理衛生教科書

全一冊 菊判 美本
正 價 六拾錢
郵 税 六錢

は、醫者として、又、文章家として當世に名高い、糸左近先生の著述で、先生の意を用いられたる點は、

糸左近先生の著書

- 一、確實最新なる講論であること。
 - 一、従來の該書の如く、大切なる衛生を附録的にせぬこと。
 - 一、美しい言文一致で、興味溢るゝが如きこと。
 - 一、原語には、一々傍に、其の綴字を附けること。
 - 一、圖は最も意匠を凝らし、最新で、且つ解し易きこと。
 - 一、衛生法は日本的であること、例へば含水炭素を以て、第一の滋養食品とし、或は障子火鉢に就て注意があるが如し。
 - 一、家庭の讀物として最も宜きこと。
- 等であり、されば、著者自らも「先輩の著書に一步を進めた」と言はれ、文部省検定掛の御方も、「面白く出来ている」と、御賞めになつた位であります。何卒總明なる先生方は、本書を御採用下さるやう、偏へに御願ひ申したう御座います。
- 本書は何時にても御需めに應せらるゝ様製本の準備は致して御座います。尙萬一を慮はかりますゆゑ御採用の節は、大凡三週間前に、御一報賜らば、御使用までに、差支なく用意仕ります。

明治大學講師 池田蘆洲先生講述

ホケト唐詩選詳解講義

全一冊 袖珍總クロー
紙金椽頗美
正 價 八百五十
小包 價 八九十
料 價 八十五
錢 錢 錢

本書は摘解通解の二項に分ち字義典故は勿論斬新なる解釋あり且欄外には本文の和譯を掲げずも一讀の下に唐詩の妙味を解題の内容と來歴とを語り作家索引は極めて搜索に便利なり

文學士 久保天隨先生講述

(大好評第參版)

ホケト菜根譚詳解講義

全一冊 袖珍總クロー
紙金椽頗美
正 價 五百六十
郵 税 七十五
錢 錢 錢

菜根譚の世に行はるゝことすでに久しく、今日青年の修養に意あるもの亦た先に披籍せざるなし、從前數種の註釋あるも卑俗淺近、殆ん言に足らず、著者、一に慨するところあり、その博文精該なる學殖を傾けて本書を選せ、本文の和譯を釐頭に記し、初學の又字解、文義、餘論、の數項、難字典故の解釋より平易明白にして、盡さざるなく、麻姑を傳ふて癢を搔くが如に、分ち難字典故の解釋より平易明白にして、盡さざるなく、麻姑を傳ふて癢を搔くが如に、勸む。

九

文學士 久保天隨先生編述

(最新刊)

現代名家文選

全一冊 菊判總クロース美本 紙數五百十頁

正價 壹圓四拾錢 小包料 拾貳錢

昭代の文章古今に冠絶し、これを以て家に名 現代諸家の作品中 特に初學の模範とな
づくる者衆として列星の如し、本書は 警拔なる評論を附 周匝註解を加へしものにして、明治文學の大觀こゝに盡きて、さ
披露せしものにして、毫も忌憚なく、しかも 不偏不黨態度の持平を失はず、されば當に 史として誦覽
するに足る

本諸書大 載家

- | | | | | |
|------|------|------|------|------|
| 泉鏡花 | 戸川残花 | 徳富蘇峰 | 戸澤姑射 | 遅塚麗水 |
| 大町桂月 | 川上眉山 | 田岡嶺雲 | 田山花袋 | 武島羽衣 |
| 高山樗牛 | 角田浩浩 | 夏目漱石 | 上田敏 | 山路愛山 |
| 福地櫻痴 | 幸田露伴 | 淺野瀨石 | 笹川臨風 | 坂本方太 |
| 齋藤綠雨 | 北村透谷 | 三宅雪嶺 | 鹽井雨江 | 志賀知川 |
| 樋口一葉 | 森田思軒 | | | |

文學士 久保天隨先生編述

(最新刊)

現代才媛文範

全一冊 菊判總クロース 頗美本

正價 壹圓 小包料 八錢

紫姫清女等平安朝時代才媛頗る多く、梅櫻桃季一時の盛を極むと雖も其の文は純古華麗に過ぎ、直に
移し來つて、今日の模範となすを得ず、本書は 女流小説家、教育家、作家等の作品 詳註
特に此點に注意し主として現代に盛名ある 女流小説家、教育家、作家等の作品 詳註
を施し 細評を加へたる 周匝親切 殆んどその比を見 詞藻の美を増すのみならず、優媛
の才情を涵養するに足る加之數頁に亘れる叙 日本女流文學史 として優に
説は事實詳備論新警一部の 價すべし。

本諸書大 載家

- | | | | | |
|-------|-------|--------|-------|--------|
| 井上通女 | 正親町町子 | 弓屋倭子 | 荷田蒼生子 | 鈴木武女 |
| 荒木田麗女 | 只野綾女 | 大塚楠緒子 | 三枝斐女 | 小川直子 |
| 若松賤子 | 棚橋絢子 | 田澤稻舟 | 中島湘煙 | 小金井喜美子 |
| 税所敦子 | 北田薄水 | 三輪田眞佐子 | 三宅花圃 | 下田歌子 |
| 樋口一葉 | | | | |

文學士 久保天隨先生講述

(最新刊)

菜根譚詳解講義

全一冊 菊判總クローヌ美本
紙數 四百五十頁
正價 金壹圓貳拾錢
小包料 十一錢

菜根譚の世に行はるゝこと久しく、今日青年の修養に意あるもの亦た之に枕籍せざるはなし。従前數種の註釋あるも、卑俗淺近、殆んど言ふに足らず、著者、こゝに概するところあり、その博文精該の學殖を傾けて、本書を撰、本文の和譯を、菴頭記に揭けて、初學の字解、文義、餘論の致項難字典故の解釋より始、平易明白にして、盡さるなく、たゞは、儒佛諸書に比較して論を、周匝親切、これに過ぎたるはなく、學者幸に津梁ありと文學士 久保天隨先生著 (最新刊)

高等漢文講義

全一冊 菊判總クローヌ美本
正價 壹圓五拾錢
小包料 拾貳錢

本書は通鑑、八大家文、戰難解の個處、及文章の妙絶なる個處、を抽出、國策、史記等の諸書に就て、懇切周匝、盡さるなく、さながら、麻姑を、古來慣用の熟語、註脚の加へし、懇切周匝、盡さるなく、さながら、麻姑を、古來慣用の熟語、典故は大抵この中に具し、之を通覽熟讀すれば、上、勞少くして功多き、其比を見ず、さればひとし讀書作文、受験參考用、且つ便益なるべきを信ず、に資益あるのみならず、

第八高等學校教授

文學士 山内二郎先生著

(最新刊)

高等國文講義

全一冊

菊判總クローヌ美本
紙數 七百十頁

正價壹圓六拾錢

小包料 拾貳錢

本書は篤學なる著者が多年蘊蓄せし學識を極めて綿密なる用、國文の註釋書中最も、意とを以て編纂註解せるものなるか故に從來世に行はるる、**正確にし、且つ最も完備せるものな、内容の一斑を源氏物語、枕草紙、平家物語等九書の妙所を抄出して、口語文を以て殆んど逐字的なる通釋を付したるを以て何人と雖も其の文意を明に了解し得らるべく、又、せり此他各書に就て一々に其の内容著者の性行後代文學、頭註索引、及衣服調度家、屋內裏大内裏等、の圖十數個を付載しあれば本書は單に初學、又我中古文學研究家、にたりては好、伴偁たるべし**

博言 故イーストレーキ先生 共編
越山平三郎先生 共編

英和熟語雙解新辭典

總クローソ類本
紙五寸五分、三寸
正價 壹圓參拾錢
壹圓參拾錢
特價 金壹圓
小包 料拾貳錢

○內容見本進呈す（但し郵券二錢封入申込るべし）
應用するにあり、本書は從來刊行せられたる英和熟語辭典の巨擘にして好評噴々たり其の眞價の如何に大なるかは左の諸新聞の批評に徴し之を知れ、
○東京朝日新聞評 英學生の參考となる熟語一万余を蒐集して英和の雙解を附し毎句概採録し且つ最も鄭重に解を附し、
○萬朝報評 其の和譯を添へ且つ例文及其語の熟語難句を蒐め多語の義を施したるものならん、
○大阪每日新聞評 日本學生に適切なる熟語一万余を蒐集し其の利きたるものに待てば長所あり、
○讀賣新聞評 英和兩面の切なる熟語を以てし且つ每句概採録し、
○中央新聞評 官立學校試驗問題中により、
○神戶又新日報評 此種のオンリチリたりしが、
採り歛點を補ひ且熟語數も一方に達したれば最も完全せるものと云べし、
探り歛點を補ひ且熟語數も一方に達したれば最も完全せるものと云べし、
採り歛點を補ひ且熟語數も一方に達したれば最も完全せるものと云べし、

アーネスト・ルース先生著

實用日英會話

(最新刊)

全袖珍總クローソ類本
紙數 五百二十餘頁
正價 六拾五錢
郵稅 六拾五錢

英國人ルース先生來朝以來高等商業、高等師範、早稻田大學、明治大學、中央大學、專修高等豫科の諸學校に於て専ら會話の講座を擔任し多年の實験に於ける獨得の教授法によりて如何に多大の成功を博せしかば世既に定評あり其結果今や我國未曾有の大單語、社交會話、實業會話、
著あり意匠一新にして組織完備せり其の收むるところ、
單語、社交會話、實業會話、
俚言、比喩慣用語、日英共通對句、普通書簡文、商業會話、
簡文、公用文書式、廣告文、度量衡表、
至るまで細大網羅し、
簡文、公用文書式、廣告文、度量衡表、
至るまで細大網羅し、
簡文、公用文書式、廣告文、度量衡表、
至るまで細大網羅し、
簡文、公用文書式、廣告文、度量衡表、
至るまで細大網羅し、

吉田潔先生譯註

(最新刊)

大寶鑑なり

獨學イソップ物語

全 紙數 參百三十餘頁
正價 五十錢
郵稅 八錢

嗚呼イソップ物語は、最近なる此類的話頭に、深遠なる眞理と、該博なる教訓を説く、實に世界の最大教科書たるは、古今獨歩に屬す、宜なり數年來我國に公私の諸學校に於て、博く英語教科書として採用せらるる是れ世界語たる英語を研究すると同時に徳性を涵養するに於て、蓋し、本書に及ぶ者なければなり、
今般吉田先生が遂に敢て逐語譯と云ふ、從來世に行はるる所謂直譯を革新せしめて、附し更に、平易簡明なる譯文を加へ、以て日英兩文の接近を計り、猶註解を施して、難文難句は勿論、發音法に至るまで其注意の周到、説明の丁寧なる他の譯書に比すれば、豁然頭角を抜く出色の獨修書なり

故三石 冢田淳五郎先生編

漢和新字海

全一冊 總クロース類美本
紙數一千六百餘頁
正價壹圓五拾錢
特價金壹圓廿錢
小包料十錢

本書は古代の字書にのみ存する不用の字即ち現今絶へて用ゐざる所のものは總て之れを削除し有用の文字に至るは其字訓一々熟字を示して文字の用法を知らしめ加之國字國訓及略字に至る殊に文字の排列に意を盡したれば一目瞭然搜索に時を要せざるは本書の特色とする所なり。而して又本書は全文悉く新鑄の銅版を用ひたれば印刷は極めて鮮明製本は堅牢にして繁劇なる使用に耐へ難裁は高尚にして輕便なれば最も机上の益友たるに適す、實に讀書家座右の寶典也。

吉田 潔 先生 譯 註

フエー マス
ストーリーズ

著者聞五十譚

全一冊 四六判美本
紙數二百三十餘頁
正價四拾錢
郵稅六錢

出た模範譯文！ 本書は目下全國滿都の諸學校に於て廣く英語教科書として採用せらるゝ一著者の切明快なる譯文にボールドウ・フエー・マス、ストーリーズの譯文にし一流の注意發音に至るまで細大剩す所なく脚註には多年經驗ある英語教師餘白を殘さず難語難法の英學生諸氏の模範譯註書たるを期す、詩文はバラフレイズして詳解したるものなり以て天下幾萬

文學士 高柔駒 吉先生 編纂

最近地圖

全二冊 菊判美本
正價各四拾錢
郵稅各六錢

●日本之部 ●外國之部
本圖最近調查ニ基最新ノ材料ニヨリ編纂セルモノニハ方面ニモ巨リ中等諸學校教科書ノ隨伴、並ニ總テ地理書ヲ範圍ハ管ニシテ、速速容易ノ如キハ本邦ニ於テハ破天荒トナシ學生必備ノ書ナリ。

學習院教授 理學士 吉田好九郎先生著

(最新刊)

算術講義

全一冊 菊判總クロース美本
紙數七百五十餘頁
正價七拾錢
小包料拾貳錢

本書は弊店が中等完全なるものなきを概し斯道の大家理學士吉田好九郎先生が豊富な學識を以て流暢に講述せられたる算術講義の初學者と算術に關疑義は直に氷解する事を得べし故に本書は師範學校の餘師たるべく小學校教員諸君に取りては過去の十數年に亘れる諸官立學校の入学試験問題を類を分ち詳解し盡して餘蘊なきを以て本書は又空前の良參考書たるべし苟くも算術を學ばんとするもの、必ず一本を座右に具ふべきものなり

理學士池田清先生著

(改版第拾參版)

改版 化學講義

全一冊 菊文字入題クローヌ
紙文字九百貳拾頁
正價 壹圓八拾錢
小包料 拾貳錢

本書は第拾參版を發行するに當り更に多大の改訂増補を施し説明を一層周到に

挿圖を訂補し問題を補足する等全新版の觀を呈せり。本書の特色は

(一)編纂の順序は普通の教科書に準じたること (二)行文は平易、説明は

懇切に難解の事項は詳細に説明しあること (三)術語等に英語を附しある

(四)の重要礦物の産地を記せ (五)計算問題及び應用問題を多敷く掲げて詳解せ

ること (六)最近九年間の立學校入學試験問題を集めて正解せしこと (七)巻末に索引を

附しあること等 中學程度の參考用 學校及び諸入學試験の準備用として適當な

なれば本書は 校長參考書なり。

理學士 田中三四郎先生著

(改訂増補第拾八版)

改訂 物理學講義

全一冊 菊判總クローヌ
金文字入題七百五拾頁
紙數 壹圓五拾錢
小包料 拾貳錢

普通の教科書は語辭簡に過ぎて學生の閱讀に適せず本書は此缺點を補はんが爲め、主として中學程度

の物理學の參考書として編纂したるものなり故に本書に就て學ば

ば教室に於ける疑問は忽ち氷解するを得べし本書には多數の計算問題應用問題を蒐集し之に答解

を附したれば高等諸學校入學試験準備用としても亦適切なる參考書なり

綠川幸則先生著 (訂正再版)

漢文講義 全一冊 菊判總クローヌ
紙數 九百八拾頁
正價 壹圓六拾錢
小包料 拾八錢

二三

ホーソーン原著 吉田潔先生譯註

二四

改訂 增補 傳記物語

全一冊 四六判美本 正價 三十五錢 郵税 四錢

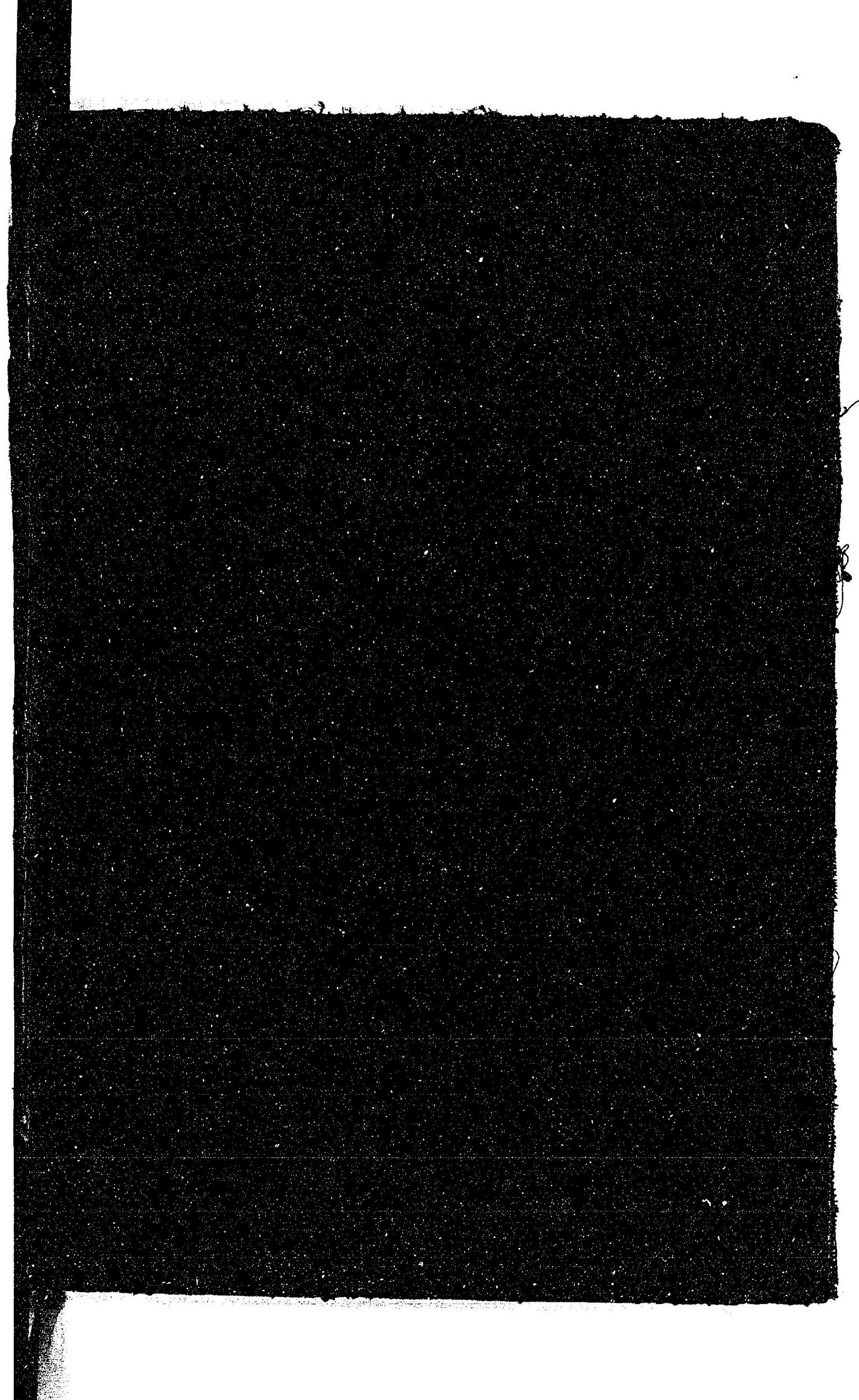
BIOGRAPHICAL STORIES.

面目一新の増訂第五版！

本書は英文學に堪能なる吉田先生が模範英語教科書ホーソーン著「バイオグラフィカル・ストーリーズ」の巧妙なる譯文を更に訂正し、原書の白眉なるクロムウエルの逸話二十頁を加へて、評書を完成す、猶脚註を 増補して餘白を 残さず英文或は邦文を以て詳解し可啻親切を極む、又的切明快なる譯文は實に學生の模範たり於是増訂第五版は面目を一新せり敢て英學生の座右に薦む、

發行圖書目錄御入用の諸君は郵券貳錢又は往復葉書にて申込に限り進呈す
發行所 東京市神田區今川小路一丁目五番地 金刺芳流堂
(電話本局七六六番振替口座八四二四番)

60
283



069025-000-6

60-283

家庭医学

糸 左近/著

M44

CDQ-0050

